

四條畷市埋蔵文化財包蔵地調査概報 22

# 岡山南遺跡発掘調査概要・Ⅳ

—— 四條畷市岡山所在 ——

1987・3

四條畷市教育委員会

四條畷市埋藏文化財包蔵地調査概報 22

# 岡山南遺跡発掘調査概要・Ⅳ

—— 四條畷市岡山所在 ——

1987・3

四條畷市教育委員会

## は し が き

急傾斜で河内平野に面している花崗岩を主とする生駒山系は、四條畷市岡山あたりから北北東に向きをかえている。この山系に沿って洪積層が北にのび、香里丘陵、枚方台地へとひろがっている。本市東部山地に源を発し寝屋川市との境を流れる讃良川、本市中央部を西流する清滝川、この両河川間の丘陵は旧石器時代にはじまり、縄文、古墳、歴史時代と長い歴史の足跡をとどめている地域である。

岡山南遺跡はこの地域の忍ヶ岡丘陵にあり、JR片町線忍ヶ丘駅より東約200mの地点から南へ約400mにひろがる地域である。この遺跡からは、旧石器時代に属する木葉状尖頭器の出土があり、屋根に堅魚木をのせた家形埴輪をはじめ貴重な古墳時代の遺物も発見されている。

今回の調査は、三田工業株式会社より委託を受け実施したもので、発掘調査は昭和61年7月より同年9月までの間に行ったものである。調査の結果、この遺跡からは、古墳時代の掘立柱遺構、平安時代の方形の板柱井戸、鎌倉時代の掘立柱の遺構と共に、それぞれの時代に関連する遺物を検出した。その内特筆されるものに、井戸内より発見された墨書土器をあげることができる。

調査に当っては、大阪府教育委員会をはじめ各位のご指導を得、また三田工業株式会社のご協力を得て完了することができた。こゝに深く感謝の意を表する次第である。

四條畷市教育委員会

教育長 櫻井敬夫

## 例 言

1. 本書は、四條畷市教育委員会が昭和61年度に大阪市東区玉造1丁目2番28号三田工業株式会社 代表取締役 三田順啓氏より委託を受けて実施した四條畷市岡山東1丁目85番地、他7筆に所在する岡山南遺跡発掘調査Ⅳの概要報告書である。
2. 調査は、昭和61年7月14日に着手し、昭和61年9月10日まで発掘調査を行い、昭和62年3月31日に昭和61年度調査事業を終了した。
3. 発掘調査は、四條畷市立歴史民俗資料館技師、野島 稔を担当者とし、調査補助員として吉田安宏、藤井大史、堀田英明があたった。  
出土遺物の整理・実測などについては、野島、吉田、藤井、堀田、堤潤一、大賀久美江、長瀬順子があたった。
4. 本書の執筆は、野島 稔が行った。
5. 発掘調査の進行、報告書作成などについては、大阪教育大学講師・瀬川芳則、奈良国立文化財研究所・光谷拓実、大阪府教育委員会・堀江門也、玉井功、寝屋川市教育委員会・塩山則之、財団法人枚方市文化財研究調査会、畷古文化研究保存会の諸機関、諸氏から種々のご教示をうけた。又、発掘調査については三田工業株式会社、日建ハウジングシステム、中田興業のご協力をうけることができた。明記して厚く感謝の意を表したい。

# 本文目次

はしがき

例言

第1章	調査に至る経過	1
第2章	遺跡の位置と歴史的環境	6
第3章	調査概要報告	9
	A. 層序	9
	B. 遺構	9
第4章	出土遺物	16
第5章	まとめ	24
第6章	掲載遺物観察表	27

## 挿 入 目 次

第 1 図	岡山南遺跡調査地位置図……………	3
第 2 図	岡山南遺跡周辺遺跡分布図……………	7
第 3 図	岡山南遺跡平面実測図……………	11
第 4 図	岡山南遺跡井戸 1 (S E -01) 平面・断面実測図 ……	13
第 5 図	岡山南遺跡出土土器実測図・Ⅰ……………	17
第 6 図	岡山南遺跡出土土器実測図・Ⅱ……………	19
第 7 図	岡山南遺跡出土土器実測図・Ⅲ……………	21

## 図 版 目 次

- 図版 1 遺跡周辺の航空写真
- 図版 2 岡山南遺跡航空写真
- 図版 3 岡山南遺跡遠景
- 図版 4 岡山南遺跡全景
- 図版 5 岡山南遺跡調査地全景
- 図版 6 岡山南遺跡調査地全景
- 図版 7 岡山南遺跡井戸 1
- 図版 8 岡山南遺跡井戸 1 隅柱・縦板・セイロ組・曲物井筒検出状況
- 図版 9 岡山南遺跡根石検出状況
- 図版 10 岡山南遺跡土器出土状況
- 図版 11 岡山南遺跡土器出土状況
- 図版 12 遺物写真・土器Ⅰ
- 図版 13 遺物写真・土器Ⅱ
- 図版 14 遺物写真・土器Ⅲ
- 図版 15 遺物写真・土器Ⅳ
- 図版 16 遺物写真・土器Ⅴ・石器Ⅰ
- 図版 17 遺物写真・土器Ⅵ
- 図版 18 遺物写真・木器Ⅰ
- 図版 19 遺物写真・木器Ⅱ

# 岡山南遺跡（第8次調査）

## 第1章 調査に至る経過

岡山南遺跡は、JR忍ヶ丘駅東約100mの府道枚方・富田林・泉佐野線を中心とする約400mの範囲で、周知の遺跡として大阪府文化財分布地図に示されている。この地域は、忍ヶ岡丘陵と呼ばれる東西に舌状に張り出す丘陵であるため南北方向の範囲はほぼ正確に把握できているが東西については東側は既成集落が建ち並ぶ地域であることから明らかでなかった。

まず最初に過去の7次にわたる調査成果を簡単に報告しておきたい。

昭和50年に府道新設バイパス工事現場をパトロール中にA地点から古墳時代中期の土器片を採集したことによって発見された遺跡であり、文化財保護法に基づきすみやかに関係諸機関に連絡を行い、再三の協議の結果、同年10月から11月にかけて遺跡の範囲及び遺構の保存状態を正確に把握するために大阪府枚方土木事務所から依頼を受けて第1次発掘調査を実施した。その結果、府道建設予定地の全域の市道葎屋清滝線と市道忍ヶ丘駅前線の間約400mの範囲に古墳時代から江戸時代に至る複合遺跡であることが確認された。

この第1次発掘調査に基づき道路予定地内の全面発掘調査に切り替えて翌年3月から4月にかけて第2次発掘調査としてB地点の調査を行った。

第2次発掘調査で得られた成果として、北河内で初めて古墳時代中期の住居跡が発見された。住居跡の規模及び平面プランは、約8m内外と推定される竪穴住居跡で方形プランを呈している。この住居跡は尾根の南端で道路予定地中央より西側の一画で検出したもので道路西側の私有地まで広がる範囲であった。

竪穴住居跡の北側には掘立柱建物跡も検出している。建物跡の中には1間×2間の倉庫跡も検出したことは北河内地方における古墳時代中期～後期にかけての集落を考える上で重要な資料を提供してくれた。

次にC地点の北側尾根を昭和51年7月から10月にかけて第3次発掘調査として実施した。調査地は旧畑地として昭和50年頃まで開墾されていたため床土下部まで一部掘り下げられていた。第Ⅲ層の褐色砂質土を除去・削平を行った後に近世の溜池状遺構と東西南北に交叉する溝を検出した。検出された溝は東西に5条、南北に5条をそれぞれ確認した。溜池状遺構と溝とは切り合い関係はなく、溜池状遺構の東に検出した南北方向に走る溝は調査地全域の約30mの長さを確認した。この溜池からこの東側の溝に水を供給する事によって全域の溝内に流れる仕組みになっている。

溜池状遺構及び溝との検出面において鎌倉時代末頃の建物跡が検出している。この柱穴(Pit)内には根石が置かれているものや、建物を放棄した段階で土師質小皿及び瓦器碗を埋めていることが確認されている。その他の出土遺物としては皇朝十二銭の乾元大宝(958年)の銅銭が4点出土したのをはじめ、瓦質羽釜、埴がそれぞれ出土した。瓦器編年からみて13世紀頃のものであった。

これらの建物跡に混って土壙が1基検出している。土壙の規模は長径1.2m、短径1.0m、深さ40cmの偏楕円形で、内から土師器甕、高杯、片口大鉢、須恵器杯等が出ており、又同じ頃の井戸跡を調査地区南端で検出している。直径1.5m、底部内径0.8m、深さ1.2mの円形素掘り井戸であった。井戸内堆積の黄褐色砂質土層中から土師器、須恵器の破片が出ており、又、最下層から須恵器細頸壺1点が出土している。時期的にみて6世紀のものであった。この井戸と切り合い関係がある大溝Aは調査地区南端に蛇行しながら検出した。

大溝A内上面において中世の日常雑器類が出土しており、井戸との切り合い関係から井戸築造以前に大溝Aが掘られたことは事実であったが、中世以外の土器は全く含まれていなかったが、後にも説明するが、第6次調査区のF地点の発掘調査において大溝A最下層から縄文時代晩期の土器片が出土し、同一層から石鏃、石錐がそれぞれ出土している。

大溝Aの北側に全長約50m、幅2~3.5m、深さ1~1.2mのU字状をした溝が調査地区中央に逆S字形を呈して検出した。この溝を大溝Bと呼び、溝内から古墳時代中期の家形埴輪、円筒埴輪、朝顔形埴輪や土師器小形丸底土器、甕、長頸壺、手捏ね土器等の土器に混り木製下駄、叩き板が出土している。

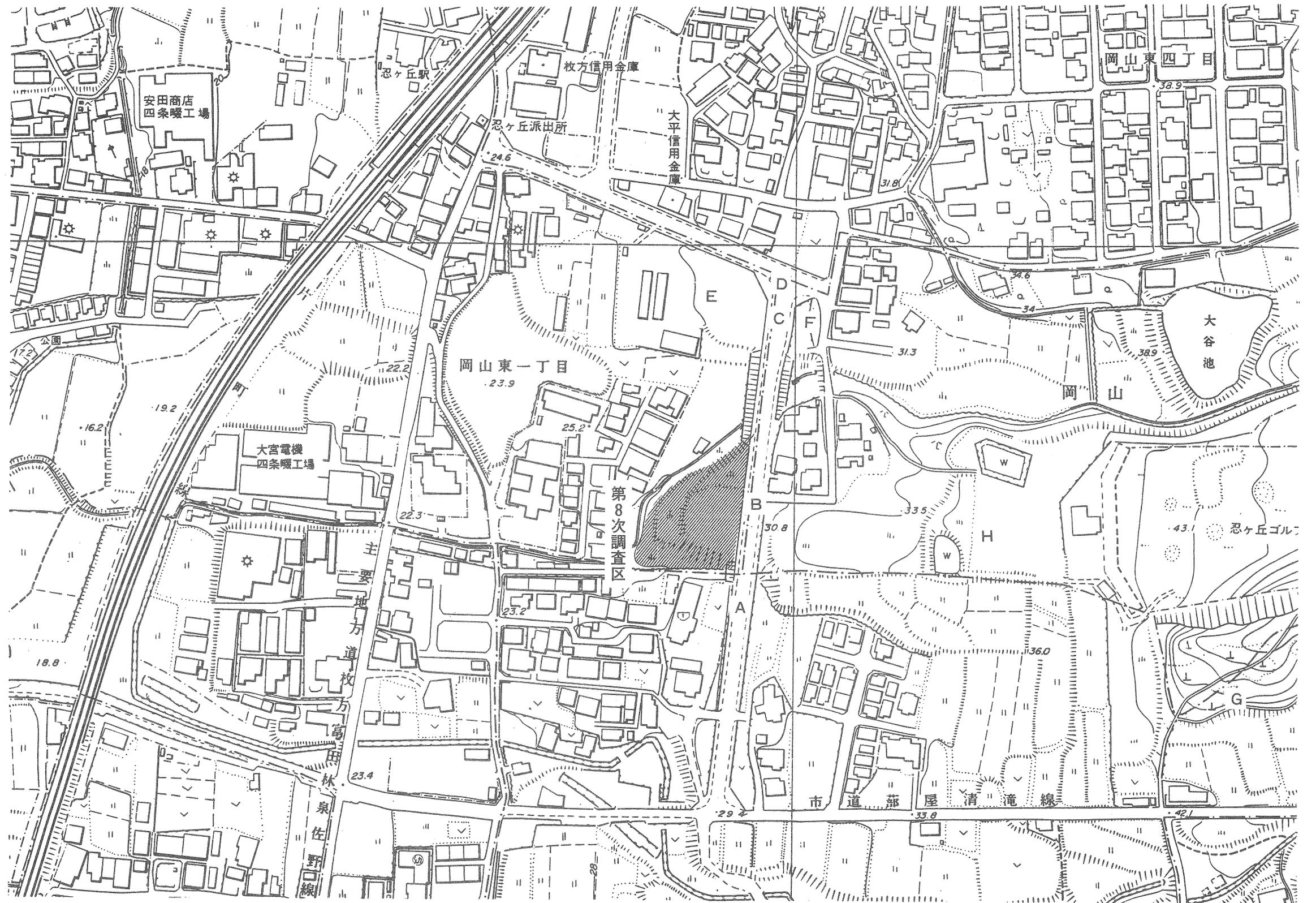
この大溝は古墳時代中期頃に掘られ後期にまで使用されていたことが出土した土器で明らかになったが、遺構の性格については今後とも研究する課題である。溝内水流系路は地形及び溝底高からみて東から蛇行しながら先端西側に流れていたものである。しかし上記にのべた土器及び埴輪類は全くローリングを受けておらず、又、小形丸底土器についてみると故意に土器を並べた状況で検出した。

溝内から円筒及び形象埴輪が数多く出土しているが墳墓とは全く考えられない。

その後第4次発掘調査地区としてD地点を調査した結果、大溝Bの北端に続く部分と第6次発掘調査地区F地点の大溝B東端に続く部分をそれぞれ発掘調査しているがC地点で検出した大溝Bと規模及び出土遺物は全く変わることはなかった。

第4次及び第6次の発掘調査の間に昭和56年2月から4月にかけてE地点の全面発掘調査を第5次として実施した。

その結果、大溝BはこのE地点には全く検出されておらず、検出した古墳時代中期の遺構はすべて掘立柱建物跡のみであった。現在大溝Bより東側周辺は既成集落のため不明であるが大溝B周辺で検出した遺構からみて、西側一帯に住居跡を検出したことから住居と墓地との区画とも考えられる。このことについては今回の調査地区や清滝共同墓地G地点か



第1図 岡山南遺跡調査地位置図

ら古墳時代中期の須恵器・鉄刀・鉄斧が一括で採集されている。又、正法寺跡から2基の古墳が正法寺造営によって破壊されたことが発掘調査によって確認されている。

第7次発掘調査地区としてH地点を、忍ヶ丘ゴルフセンターの駐車場に忍ヶ丘ハイツ建設が計画されたことに伴い発掘調査を実施した。

その結果、落ち込み状遺構、掘立柱建物跡、大溝を検出した。落ち込み状遺構内からの出土遺物としては、龍泉窯系青磁碗、須恵器練鉢、平瓦とともに瀬戸焼水滴が出土した。水滴は口径2.2cm、器高3.3cmの小壺に肩部に注口部を付けたもので、同形式のものが高槻市岡本山古墓から出土している。

掘立柱建物跡内から須恵器、土師器、瓦器碗が出土した。すなわち、時期的にも13世紀代に比定され、それに次いで落ち込み状遺構の14世紀にも集落があったと考えられる。

最後に大溝内からは坏身、坏蓋、有蓋高坏、甕とともに滑石製勾玉、砥石、円筒埴輪、鉈が出土している。時期的には6世紀代のものである。

今回の第8次調査は昭和51年3月4月にかけて実施したB地点の西側丘陵突端部に三田工業株式会社四條瞰察計画がなされ、B地点の続きに伴う古墳時代集落跡が推定される地域である。

## 第2章 遺跡の位置と歴史的環境

岡山南遺跡は大阪府四條畷市大字岡山に所在する。四條畷市は大阪府の北東部に位置し、奈良県との県境になる。南北に通じる東高野街道沿いには、中世の掘立柱建物跡・井戸等の遺構が存在し、陸路交通の要地であり、中世村落として栄えていた。このような地理的に重要な位置を占めていたことは、原始・古代においても同様、文化的先進地域の様相を呈し、多くの遺跡の存在が知られている。

当遺跡は生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の海拔25～30mの忍ヶ岡丘陵の地形を利用して立地している。東の生駒山系から流れる水は讃良川・清滝川・権現川となり、いづれも丘陵を横切りつつ東西に谷地形を形成している。

今回の調査地は忍ヶ岡丘陵のほぼ上位に発見された。

生駒山系の西側斜面の枚方台地は、北は八幡丘陵から南は南野丘陵までの淀川左岸にひろがる広大な丘陵、段丘があり、この枚方台地は大きく北から枚方市船橋川・穂谷川・交野市天野川・寝屋川市寝屋川・四條畷市讃良川・清滝川という中小河川によって開かれている。この枚方台地には原始・古代の幾多の遺跡の存在が知られている。

最近になって旧石器時代の遺物を発掘調査によって明らかになってきた。枚方台地の旧石器時代遺跡としては、現在のところ20遺跡が知られており、特に国府期のナイフ形石器・有舌尖頭器が出土している枚方市楠葉東遺跡、ナイフ形石器・小型舟底形石器・石核が出土した津田三ツ池遺跡、細石器・石核が出土した藤阪宮山遺跡、国府型ナイフ形石器・石核が出土した交野市神宮寺遺跡、ナイフ形石器・細石器・削器・彫器・礫器等を出土した四條畷市更良岡山遺跡、木葉状尖頭器が出土した岡山南遺跡、有舌尖頭器を出土した南山下遺跡が知られている。他に表面採集された寝屋川市打上、四條畷市忍岡古墳附近においてもナイフ形石器が採集されており、旧石器文化研究上枚方台地はきわめて重要な位置をしめている。

縄文時代には米粒文、山形文を施した押型文土器を特徴とする土器が出土する交野市神宮寺遺跡、四條畷市田原遺跡、東大阪市神並遺跡において近畿地方で最古の土器が出土している。又、枚方市穂谷遺跡、大東市寺川堂山にも早期の土器が発見されている。

前期には石器のみ採集された津田三ツ池遺跡が知られる。

中期には渦巻文や半截竹管文をもつ船元式土器を出土する四條畷市南山下遺跡・砂遺跡、交野市星田旭遺跡があり、後期・晩期にはほぼ完形の高杯形土器・深鉢形土器・注口土器・土製勾玉・土偶等多量の土器・石器が出土する四條畷市更良岡山遺跡、岡山南遺跡・清滝古墳群においても石鏃、深鉢形土器が出土する。

枚方市交北城ノ山遺跡において滋賀里式系の深鉢形土器を転用した埋甕遺構が発見されている。



第2図 岡山南遺跡周辺遺跡分布図

S=1/25,000

- |            |               |            |
|------------|---------------|------------|
| 1. 打上遺跡    | 10. 千畳敷遺跡     | 19. 城遺跡    |
| 2. 石宝殿古墳   | 11. 坪井遺跡      | 20. 龍尾寺跡   |
| 3. 小路遺跡    | 12. 忍ヶ丘駅前遺跡   | 21. 墓の堂古墳  |
| 4. 砂遺跡     | 13. 南山下遺跡     | 22. 南野米崎遺跡 |
| 5. 更良岡山遺跡  | 14. 奈良井遺跡     | 23. 和田賢秀の墓 |
| 6. 四條畷砂山銅鉾 | 15. 中野遺跡      | 24. 雁屋遺跡   |
| 7. 北口遺跡    | 16. 清滝古墳群     | 25. 楠正行墓   |
| 8. 忍岡古墳    | 17. 正法寺跡      | 26. 岡山南遺跡  |
| 9. 奈良田遺跡   | 18. 四條畷小学校内遺跡 |            |

弥生時代については四條畷市雁屋遺跡から畿内第Ⅰ様式中段階の高さ70cmの大壺が出土しており、古代河内湾の時代で最北端で発見され、北河内で最初の遺跡として知られている。また四條畷市田原遺跡において前期末の壺が出土している。

中期初頭の畿内第Ⅱ様式の時期に出現する高地性集落の寝屋川市太秦遺跡や第Ⅱ様式～第Ⅳ様式に認められる直径11.5cmの巨大な竪穴式住居跡をもつ田ノ口山遺跡、交北城の山

遺跡で第Ⅱ様式から始まる方形周溝墓42基・竪穴式住居跡8棟・土壇・高床式建物跡が検出された場所は穂谷川水系沿いに立地している。

四條畷市雁屋遺跡から第Ⅲ様式から第Ⅳ様式にかけての方形周溝墓4基から21基の木棺墓、1基の土器棺が検出した。木棺墓にはコウヤマキ・ヒノキ・カヤの3種の棺材を使用されている。コウヤマキ材の木棺は厚さ13cmで、当時の埋葬時の状態で検出され、木棺墓研究に重要な資料を提供してくれた。

後期の第Ⅴ様式になると枚方市・交野市・寝屋川市の淀川左岸地域においては数多く点在する。代表的なものとしては、小型仿製鏡や分銅形土製品が出土した鷹塚山遺跡、六角形の竪穴式住居跡が発見された山之上天堂遺跡、鹿の絵の線刻した土器が出土した藤田山遺跡、住居と墓地をV字溝によって分離した星ヶ丘西遺跡、一棟の竪穴式住居跡から鉄鏃を含む53個の鉄器片が出土した星ヶ丘遺跡等があげられる。

古墳時代について見ると、眼下に淀川を見下ろす水運との関係が考えられる万年寺山古墳から8面の銅鏡が出土している。又、直径25mの円墳と考えられ画文帯環状乳神獸鏡1面・銅鏃6本・鏃形石製品2個他を出土した藤田山古墳、粘土槨内から硬玉製勾玉・ガラス製小玉・碧玉製管玉・鉄剣・刀子を出土した交野市妙見山古墳、全長約80mの前方後円墳で後円部に長さ約6.3m、幅約1mの竪穴式石室を今なお見ることのできる忍岡古墳がある。

交野市の森古墳群から前方後円墳と円墳を含む8基の前期古墳群が確認されており、眼下に巴形銅器・筒形銅器を出土した交野車塚古墳、中期になると枚方市禁野車塚古墳、牧野車塚古墳、四條畷市墓の堂古墳がある。後期になると生駒山系西麓に数多く分布しており、特に大東市堂山古墳群・四條畷市清滝古墳群・更良岡山古墳群・交野市寺古墳群・倉治古墳群・枚方市中宮古墳群・白雉塚・比丘尼塚・北河内最大の横穴式石室をもつ寝屋川市寝屋古墳、終末期には国史跡指定されている石ノ宝殿古墳がよく知られている。

古墳時代の集落跡の発見は、四條畷市が大半を占めている。四條畷市岡山南遺跡の大溝内から切妻造りの家形埴輪に5個の竪魚木をつけたものや、円筒埴輪・蓋形埴輪・動物形埴輪とともに木製下駄も出土している。中野遺跡においては5世紀後半の製塩土器や最古形式の須恵器とともに勾玉・白玉・紡錘車・木製剣が多量の土器とともに出土している。隣接地の奈良井遺跡には実際に製塩作業を行った石敷製塩炉及び1辺約40mの方形周溝遺構の祭祀場が検出し、周溝内から多量の土器とともに手捏ね土器・人形土製品・動物形土製品・滑石製品がそれぞれ一括で出土している。又、同一溝内から小型の蒙古系馬が埋葬されていた。古代から中世にかけての遺跡は各市において数多く知られている。

## 第3章 調査概要報告

今回の調査地点は、四條畷市岡山東1丁目85番地で、生駒山系の西側斜面から派生する忍ヶ岡丘陵の南側尾根部先端に位置する。

調査は、昭和61年5月19日に三田工業株式会社四條畷寮建設予定地内に幅2m、長さ13mと、幅2m、長さ5mのトレンチ（試掘穴）2ヶ所を設定して遺構の有無及び保存状態と基本的な層序の確認を行った。

試掘調査の結果、社宅建設予定地内に旧表土面が三段からなる尾根であり、全域に遺構及び遺物が検出した。

区画設定は、昭和51年7月に実施した府道枚方、富田林、泉佐野線バイパス建設工事に伴う岡山南遺跡第3次調査において設定した道路幅員（東西15m）の中心線に前調査次と同じFラインを設定し、西へEライン、Dライン、Cラインと10m区画で東西に横軸を基本設定した。縦軸については、調査地区北端の市道忍ヶ丘駅前線の中心地点を算用数字の004と基本設定をし、南へ10m毎に005、006、007……019・020をあてて南北区画を設定した。それ故1区画は100㎡の面積を有する。

### A. 層序

調査地の東壁断面の基本層序は、第Ⅰ層（盛土）、第Ⅱ層旧表土、第Ⅲ層黄褐色粘質土、第Ⅳ層淡褐色砂質土となる。各層は東から西へ少し傾斜しているが、遺構のベース面の第Ⅳ層下においては全く傾斜面をもたないフラットな面を検出している。

第Ⅰ層 盛土、昭和50年代に旧土地所有者によって残土を東側に隣接する府道の高さまで盛土されていた。東側で約0.8m、西側で約2.2mの盛土である。

第Ⅱ層 旧表土、昭和50年頃には荒地となっており雑草が茂っていた。厚さ約20～25cmで全域に認められる。

第Ⅲ層 黄褐色粘質土。厚さ約20～25cmで全域に認められる。

第Ⅳ層 厚さ約20～30cmの淡褐色砂質土で、東側半分だけに検出した層位で、この層位下が遺構ベース面であり、西側半分の遺構ベース面は第Ⅲ層の黄褐色粘質土下、すなわち、黄褐色礫混り粘質土層からなっている。

### B. 遺構

今回の調査において検出された主たる遺構は、井戸（SE-01）、溝、土塋、掘立柱建物跡等である。

#### 井戸1（SE-01）

E-019地区内で井戸1基を検出した。二段掘りの掘形をもっており、地表面は、1辺の

長さ167×142cmのほぼ方形を呈する平面で深さ260cmに一旦掘り下げたあと、さらに直径105cm、底径68cm、深さ90cmに掘り下げ曲物の井筒を置いている。

最下層に約15cm内外の花崗岩を置き、その上に3段の曲物(桧材)の井筒を置いている。曲物の計測値は以下の通りである。上段は、直径67cm、高さ40cm、中段は、直径63cm、高さ14cm、下段は、直径60cm、高さ30cmで、3段の曲物が片寄らないように曲物内部2面に板材(桧材)を補っている。

この上段の曲物横に円形の花崗岩を四隅に置き、その上段に横板(桧材)として、長さ105cm、幅26cm、厚さ3cmの板材を左右対角線に突出させ、交互に置く手法で3段においている。セイロ組の上段には隅柱等を支えるための筒受け(桧材)を掘形の外側まで差し込みその上部に筒台(二葉松)を方形に組合せて隅柱(榿材)を四隅に立て、隅柱に柄孔をあけて横棧(榿材)を3段差し込んでいる。隅柱は長さ140cm、幅12cmの角・丸柱を使用し、横棧は縦板に接する例を一方だけ削り両端を隅柱の柄孔に合わせ先端を加工している。最後に横棧の外側に縦板が打ち込み式に加工されている。縦板(桧材)は長さ約124cm、幅最大で30cm、最小で14cm、下部の両側二方を切り取り二方から削り打ち込みやすく工夫している。縦板の下部には方形の孔を穿つ。この方形孔は湧水集積のためのものである。

SE-01の構造は以上の通りであるが山本博、井戸の研究—考古学から見た—によると、この井筒の形式名は「隅柱・縦板・横棧・セイロ組・曲物井筒」と呼ぶことができる非常に立派な構造をもつ井戸である。

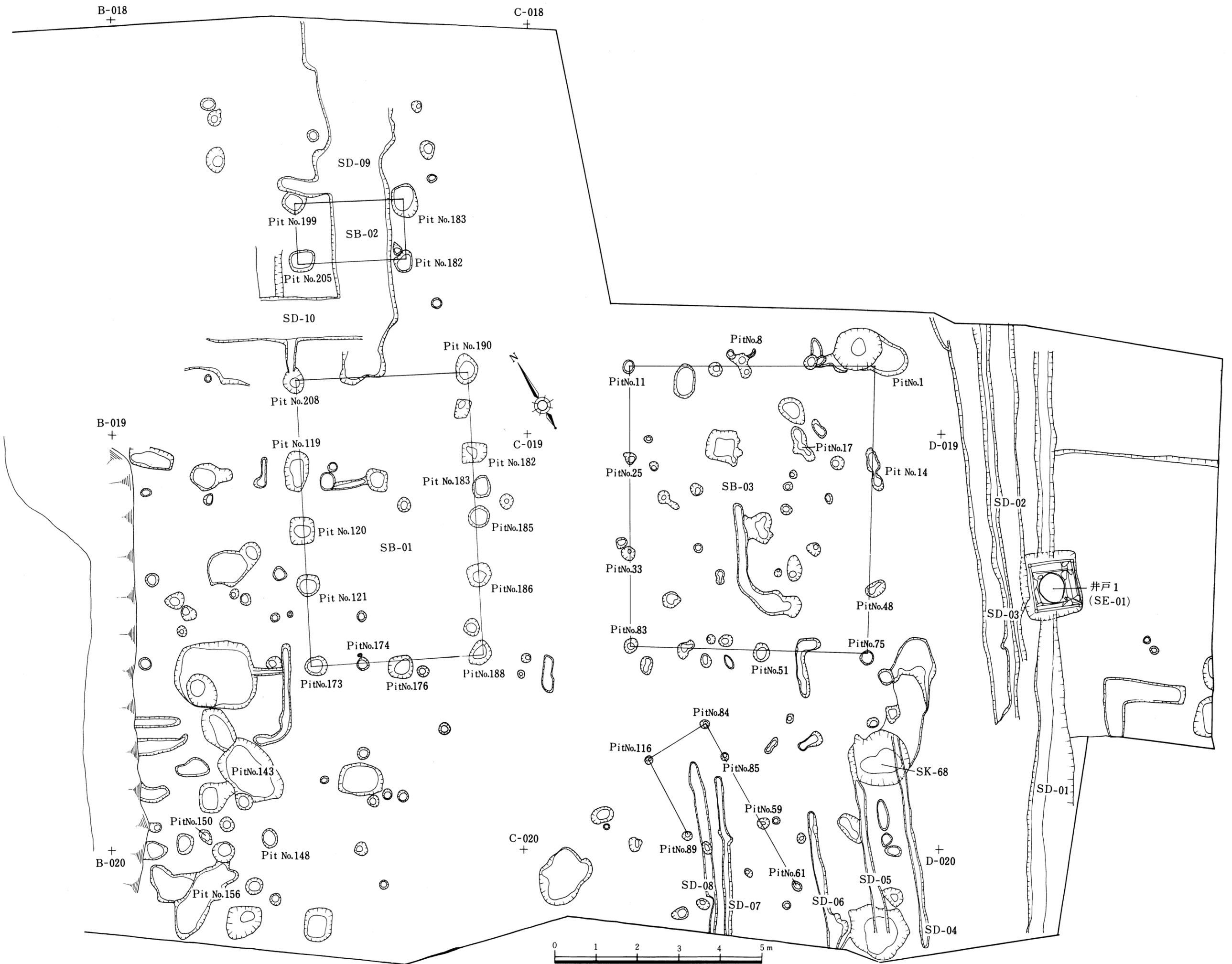
井戸の計測値をもう少し補足すると、167×142cmの方形の掘形で隅柱間は110×115cm、縦板の内法は100×115cmの方形セイロ組、内法は70×80cmの方形で、曲物の内法は52×60cmの円形である。井戸内からの出土遺物(第5図・6図)は、黒色土器A類碗18点、B類碗1点、A類鉢1点、緑釉陶器皿1点、土師質大皿1点、中皿1点、小皿19点、須恵器高杯1点、石庖丁1点、木製釣瓶1点が出土した。

黒色土器A類には第4章出土遺物及び第6章掲載遺物観察表で詳述するが、A類碗3点の底部外面に「高田宅」「福万(方)宅」と墨書された土器3点が含まれている。緑釉陶器も保存状態や焼成も良好である。土師質小皿は口縁部が「て」の字を呈するもので、須恵器高杯及び石庖丁以外は10世紀中頃の一括資料である。今回の調査区域内及びその周辺において石庖丁とその並行時期である弥生時代の遺物は現在のところ発見されていない。しかし石庖丁出土によって岡山南遺跡もしくはその周辺において弥生集落が出現していたことを証明するものである。

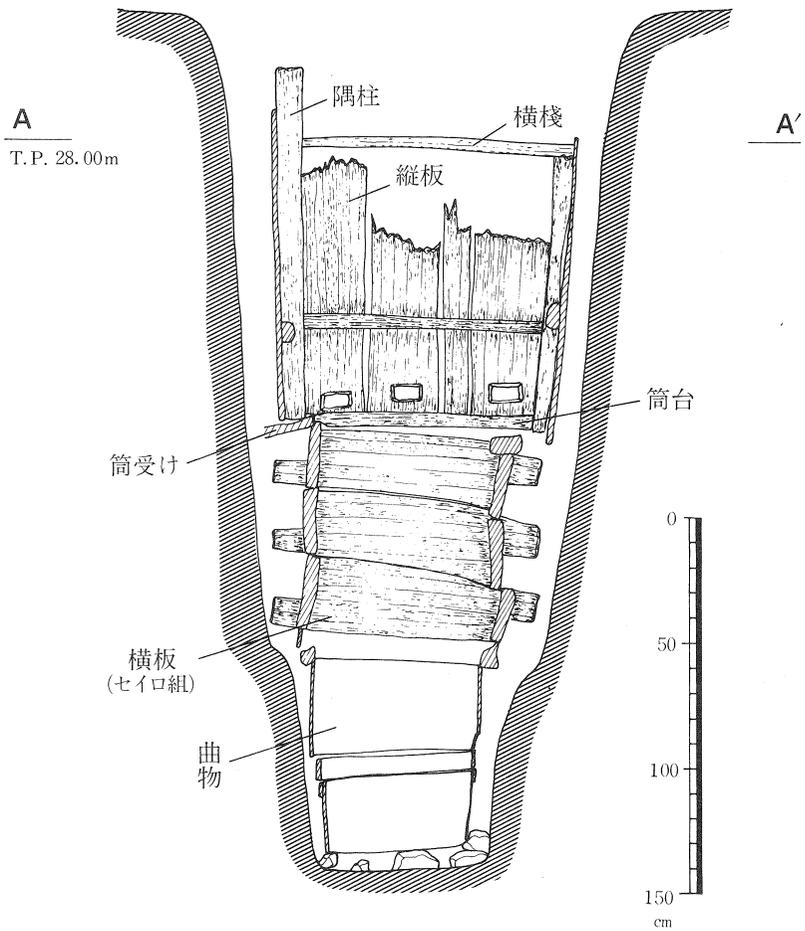
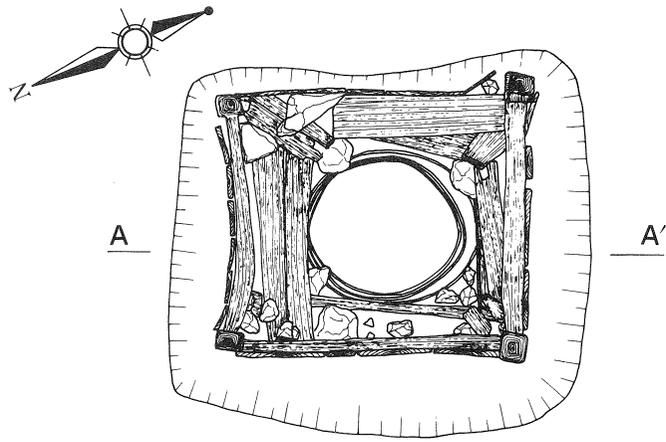
#### 溝(SD)

E-019とE-020地区内でSE-01と切り合って南北方向に溝3条を検出した。

SD-01の規模は、幅70cm、長さ14m、深さ27cmのU字状を呈する溝で溝底の比高差から南側への流路である。溝内からの出土遺物は磁器が出土している。



第3図 岡山南遺跡平面実測図



第4図 岡山南遺跡井戸1 (SE-01) 平面・断面実測図

S D-02の規模は、幅60cm、長さ9.6m、S D-03は幅60cm、長さ9mで3条の溝は平行している。流路ならびに出土遺物はS D-01同様である。

D-019からD-020にかけて南北方向に溝5条を検出した。S D-04の規模は幅20cm、長さ7.4m、深さ10cm、S D-05は幅18cm、長さ3.8m、深さ6cmでS D-01同様南側への流路である。

C-020からD-020の地区中央部において2条の平行溝を検出した。S D-07と08で溝内から全く出土遺物はなかった。

C-018内でS D-09とS D-10を検出した。S D-09は南北方向に検出した大溝で、幅1.45m、長さ8m、深さ11cm、S D-09と切り合ってS D-10を東西方向に検出した。幅1.03m、長さ3.7m、深さ13cmのU字状を呈する。S D-10から土師質皿、瓦器椀が出土した。

### 土壙 (S K)

D-020地区からS K-68を検出した。S D-04とS D-05との中間に検出したもので、その規模は長径1.4m、短径1.3m、深さ36cmであった。S K-68内から土師質小皿(第7図-48)(図版17-48)と瓦器椀(第7図-52)(図版17-52)が出土したが、瓦器椀編年からみてS K-68は13世紀末~14世紀初頭の遺構である。

PitNo.17は20×20cmの円形を呈する。Pit内から緑釉陶磁器(第7図-51)の底部が出土した。

PitNo.143は140×120cmの隅丸方形を呈する。Pit内から土師器壺(第7図-57)が置かれた状態で出土した。

PitNo.150は30×50cmの円形を呈する。Pit内から須恵器罍(第7図-53)(図版17-53)が置かれた状態で出土した。この罍は初期須恵器で、大東市堂山古墳群第1主体部出土の須恵器壺と器形、胎土、焼成がよく似ている。5世紀中頃のPitである。

PitNo.156は160×100cmの長方形を呈する。Pit内から韓式系土器2点(第7図-55・56)(図版17-56)が出土した。

PitNo.183は50×60cmの円形を呈する。Pit内から土師器甕(第7図-54)(図版17-54)が完形品で出土した。

### 掘立柱建物跡 (S B)

#### S B-01

C-019のすぐ西側にS B-01を検出した。桁行4間(6.9m)梁行2間(4.2m)の南北棟の建物で主軸の方向はN-26°-Eである。

個々の柱掘形は、径50~80cmの隅丸円形もしくは隅丸方形のもので、PitNo.176のように底に20cm程度の花崗岩を据えたもの。現在の深さ約36cm程度のものがほとんどである。

S B-01の個々のPit内から古墳時代の遺物のみ出土しており、この時期の建物である。

#### S B-02

S B -01の北側に桁行1間、(2.6m)梁行1間(1.5m)の東西棟の建物で、主軸の方向はN-61°-Wである。

個々の柱掘形は径60~80cmの隅丸方形のもので、現在の深さ17cm程度のもものがほとんどである。

### S B - 0 3

D-019地区内に検出した桁行3間(6.7m)梁行3間(6.2m)のほぼ正方形の建物で主軸の方向はN-29°-Eである。

個々の柱掘形は径30~45cmの円形もしくは隋円形のもので、PitNo.14とPitNo.75に花崗岩を据えたものがある。現在の深さ約18cmのもものがほとんどである。

## 第4章 出土遺物

### 概観

古墳時代の掘立柱建物跡。落ち込み状遺構、平安時代の掘立柱建物跡。井戸、鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物跡。溝等の遺構に伴って出土した遺物は、土器、木製品、石器からなる。

土器は、掘立柱建物跡内から須恵器、土師器が出土しているが、大半の土器は井戸内からのもので、その土器の内訳は実測可能な遺物として、黒色土器20点、うち3点は底部外面に墨書のある土器、土師質大皿1点、中皿1点、小皿19点、緑釉陶器1点、須恵器高杯1点、石庖丁1点、木製釣瓶1点が投入された状況で出土した。高杯、石庖丁以外の黒色土器、土師質皿は土器編年からみて比較的短期間の時期を示したものである。

#### A. 井戸 (S E-01) 内出土遺物 (第5・6図。図版12~16。18~19)

S E-01内からの出土遺物としては、上記に述べたように黒色土器 (第5図-1~11。第6図-12~20。図版12~15)、土師質皿 (第6図-22~42図版15~16)、緑釉陶器 (第6図-21。図版16)、高杯 (第6図-44。図版16)、石庖丁 (第6図-45。図版16)、木製釣瓶 (第6図-43。図版18~19) が出土している。

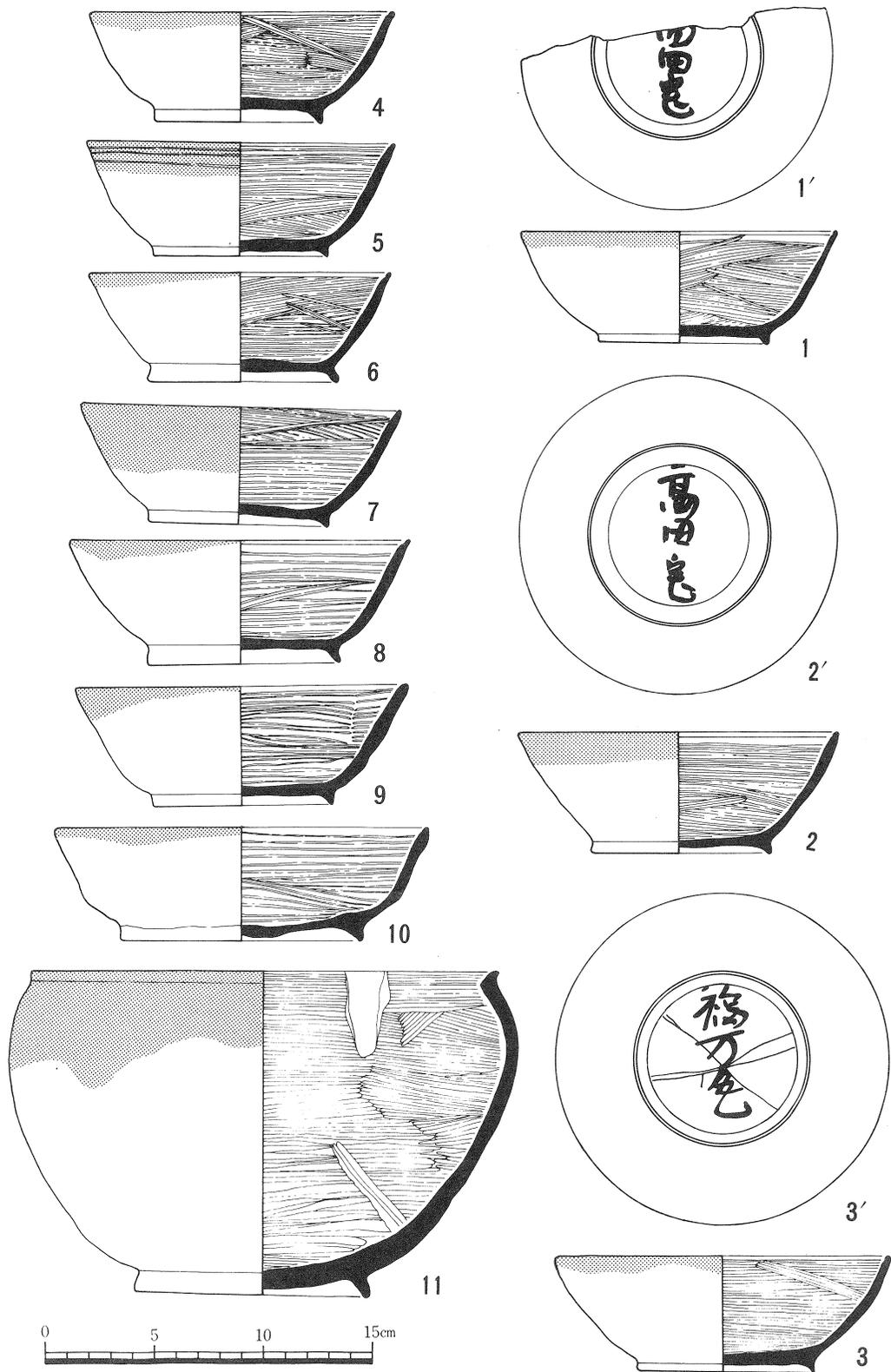
#### 黒色土器椀 (第5図-1~11。第6図-12~20) (図版12~15)

内面のみ漆黒色を呈するA類と、両面とも漆黒色のB類に分けられる。橋本久和氏が畿内の黒色土器 (1) 中近世土器の基礎研究Ⅱで黒色土器編年表 (試案) で指摘されているⅡa期の平安京跡左兵衛府S D 1出土例を指標にし、Ⅱb期は平安京跡右京二条二坊S X 1と内膳町跡S K 19を指標とする黒色土器のセット関係から、今回岡山南遺跡から出土したS E-01内からの黒色土器一括資料の中にB類が1点出土している以外はすべてA類である。B類の出土状況はS E-01堆積上層からの出土遺物で、編年表からみて、Ⅱa~Ⅱb期古段階の良好な資料である。

岡山南遺跡S E-01内一括資料の黒色土器の椀は3型式ある。

Aは口径14.3~15.2cm、器高5.1~5.5cm、器高指数34~37で底部は平底で断面三角形の高台を付し、口縁部内面に1条の沈線を巡らしている。底内部には一定方向のヘラミガキと、体部内面は細かいヘラミガキがそれぞれ施されている。内面のみ黒色化する特徴をもつもの (第5図-1~9)

Bは口径16.2~17.2cm、器高4.9~5.7cm、器高指数30~33で底部は丸味をもつ下げ底で断面三角形もしくは台形の高台を付す。口縁部内面に沈線を巡らさない。底内部はナデ調整のみ行なわれ、内面は粗いヘラミガキが施されている。体部内外面は、指オサエで仕上げられているもので、器形が歪むものが多い。内面のみ黒色化する特徴をもつもの。(第5図-10。第6図-14、17)



第5図 岡山南遺跡出土土器実測図・I

Cは口径12.8~13.9cm、器高5.4~5.5cm、器高指数39~42cmで底部は丸味をもつものと平底をもつものが含まれる。体部内面のヘラミガキが水平に施されず、不定方向のヘラミガキを施すもの、内外面ともに黒色化するものが出現する特徴をもつもの。(第6図-12、20)以上の3型式がある。ここでいうA・B型式は黒色土器A類の範疇に入り、C型式は黒色土器B類に入るものである。もう少し簡単に説明すると、

Aは、器高指数34~37で底部平底、口縁部内面に沈線を施し、内面は粗かい水平のヘラミガキを施こし、内面のみ黒色化するもの。

Bは、器高指数30~33で底部丸底、口縁部内面に沈線を施さない。内面は精い水平のヘラミガキを施こし、内外面を指オサエで整形している。

Cは、器高指数39~42で内面のヘラミガキを不定方向に施こし、内外面とも黒色化するものに分けられ、SE-01の黒色土器はA型式が75%、B型式が15%、C型式が10%となる。以上のようにSE-01内からは、A型式が最も多く、この中には底部外面に「高田宅」(2点)、「福万(方)宅」(1点)と墨書された合計3点の黒色土器が含まれている。

#### 黒色土器鉢 (第5図-11)(図版12-11)

口径21.2cm、器高14.8cm、高台径10.5cm、器高指数70で、底部は丸底を呈し、高台は外下方に開く断面台形の貼り付け高台。

体部は下方から内弯気味に外上方に立上る。ほぼ丸形を呈する器形で体部中位上面に最大径をもつ。口縁部は「く」の字形に外反するもので、指によるヨコナデ整形をしている。体部内外面も同じく指によるナデを施こし、特に外面には時計回りに指オサエの跡が明瞭に確認される。

内外面のヘラミガキは、内面底部は一定方向に、体部内面は水平方向にしていねいに施している。体部外面は右下りの方向に粗く施されている。

色調も底部周辺は暗褐色であるのに、体部は淡褐色を呈し、口縁部外面及び内面は黒色をそれぞれ呈している。

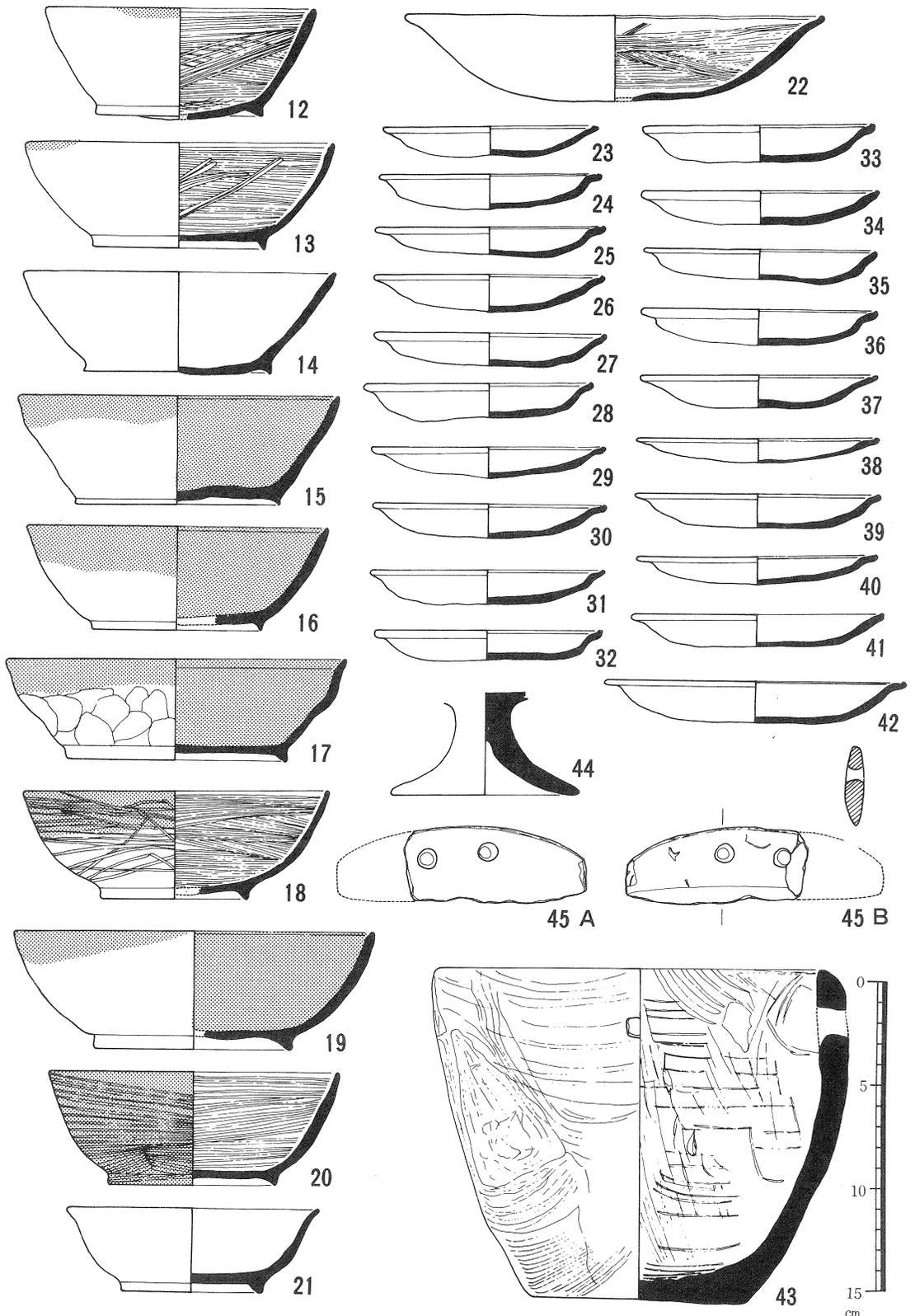
#### 緑釉陶器 (第6図-21)(図版16-21)

SE-01内から緑釉陶器皿1点が出土した。底部は平底で、ほぼ垂直に下る断面台形の貼り付け高台。胎土は淡褐色系で硬質。釉は緑褐色。整形は比較的丁寧で、ロクロナデで仕上げているが、成形時の痕跡を残す。外底面に糸切り跡を残す。内面に重ね焼きの痕跡を残す。

#### 土師質皿 (第6図-22~42)(図版15-24~39。図版16-41)

SE-01内から実測図可能な土師質皿は大皿1、中皿1、小皿19の合計21点が出土した。大皿、中皿、小皿は同型式の中での相対的大きさの別により、大皿、中皿、小皿と呼称することにした。以下大略を示すが、詳細は第6章掲載遺物観察表に記述する。

大皿(第6図-22)は口径20cm、器高4.2cmでレンズ状の体部をもち、体部下半はユビオサ



第6图 岡山南遺跡出土土器実測図・Ⅱ

エ、上半はヨコナデを施す。口縁部は外反させ端部を内側に把厚させ、色調は淡褐色である。中皿（第6図-42）は口径14.5cm、器高2cmで口縁部を外反させ端部を内側に把厚させる「て」の字状口縁で、色調は赤褐色である。

小皿（第6図-23~41）（図版15-24~39・図版16-41）は口径10~12cm、器高1.2~1.8cm、器高指数13~16で口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる「て」の字状口縁で規格性に富み、色調も褐色系が多く中には赤褐色を呈するものもある。内底面を一定方向にナデ、口縁部内・外面をヨコナデし、外底面を指オサエ後ナデをそれぞれ施している。

中には、レンズ状の体部をもつ、器高指数が10~12のもの（第6図-38、40）が含まれるが手法の特徴については同じである。

#### 木製釣瓶（第6図-43）（図版18~19）

口径18.5cm、器高16.0cm、最大径19.9cmで、クスノキ材の丸木を鋸で両端輪切りにし、内面を削り抜いて鉢状にしている。口縁部下約2cmのところに1.4×1.2cmと1.2×1.4cmの方形孔を2個対にして穿っている。方形孔には、紐擦れ痕が認められる。

整形は、表面は極めて平滑で、幅1cm前後のノミ状工具を使用し、内面は幅3cm前後の同じくノミ状工具で削っている。特に内面については、上部は横方向、中程から底にかけては縦方向の削りが認められる。

#### 須恵器高杯（第6図-44）（図版16-44）

高杯の脚部のみ出土した。脚底径8.9cm、脚部高4.5cmの短脚で、脚部は下外方に下り、脚部と裾部の境がなく裾部で少し横にのび、端部は丸くおさめる。マキアゲ、ミズビキ成形で、杯部は欠損しているが脚部との貼り付けが認められる。胎土は密で白色砂を含む。焼成は良好。堅緻。色調は灰色を呈している。

#### 石庖丁（第6図-45）（図版16-45A・B）

全体の $\frac{1}{3}$ 程度を欠いている。現存長さ8.9cm、幅3.7cm、厚さ0.9cmで、刃部及び背部が弯曲する内弯刃半月形態のタイプである。身幅の狭いもので、刃部には左右方向の研磨痕があり、刃先には刃潰れ痕が認められる。A面両孔に紐擦れ痕が認められる。材質は緑泥片岩である。

### B. 遺物包含層・SK・Pit内出土遺物（第7図・図版17）

#### 瓦器皿（第7図-46~47）（図版17-46~47）

瓦器皿2点がE-019地区遺物包含層淡褐色砂質土層内から出土した。口径9.1cmと8.8cm、器高はともに1.7cmの底部がやや丸味をもち、体部は内弯気味に立上り、口縁で外反気味の端部を丸くおさめたもので、内面にはジグザグ（鋸歯状）の暗文が施されている。

#### 土師質小皿（第7図48~50）（図版17-48~50）

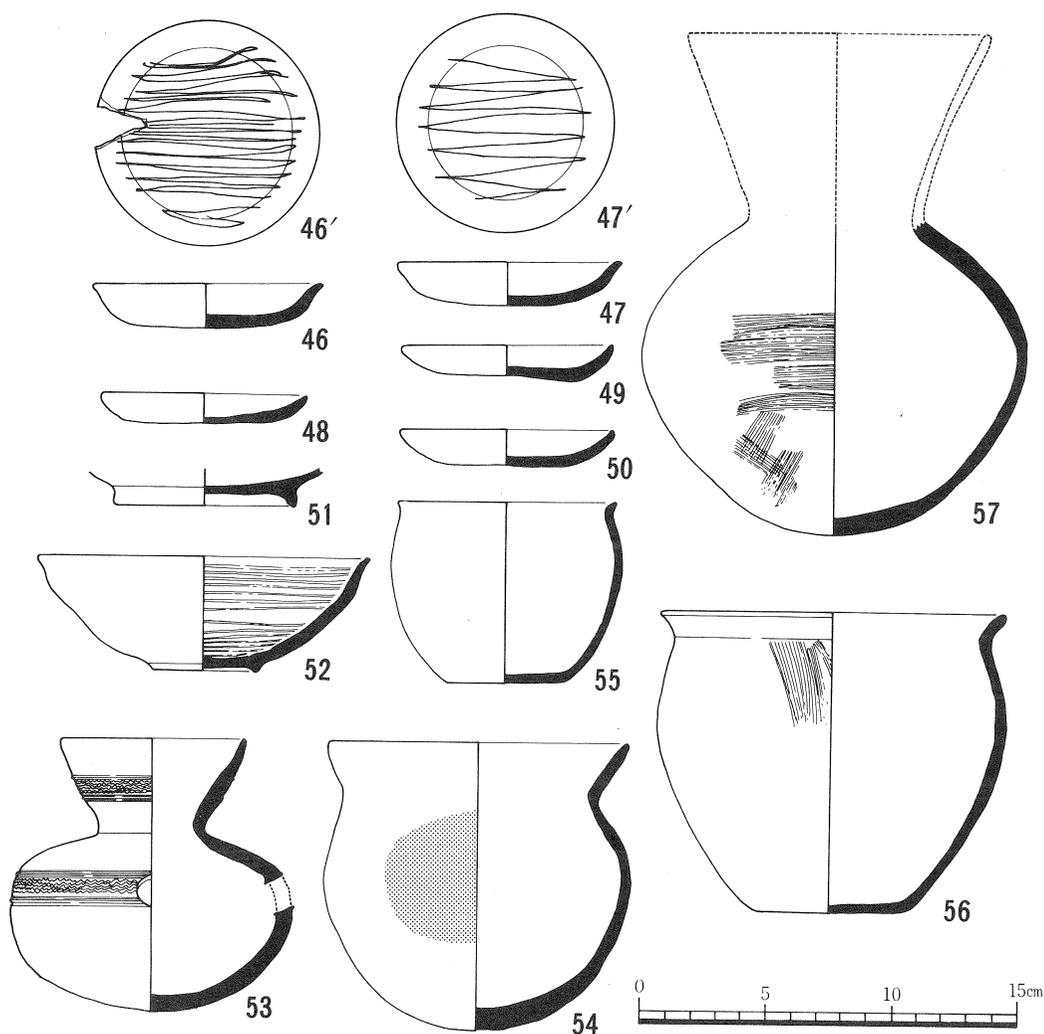
(48)の土師質小皿は、口径8.1cm、器高1.1cmで平底気味の底部から、内弯気味に外上方に立上り端部を丸くおさめたもので、口縁部を内側に折り曲げヨコナデを施している。胎

土は良。焼成も良。後述する瓦器椀とともにS K 68土壙内から出土。

(49) と (50) の土師質小皿は、口径8.3cm、器高1.1と1.4cmで、やや上げ底気味の底部から、内湾気味に外上方に立上り、口縁端部を丸くおさめたもので、口縁部を内側に折り曲げヨコナデを施している。内底面はナデを施している。ともにE-019包含層淡褐色砂質土層内から出土。

**緑釉陶器 (第7図—51)**

PitNo.17内から緑釉皿底部が出土している。底部は平底で、ほぼ垂直に下る断面台形の貼り付け高台で、胎土は褐色系で軟質、釉は濃緑色。整形は精良でロクロナデを施している。内面に重ね焼きの痕跡を残している。



第7図 岡山南遺跡出土土器実測図・Ⅲ

### 瓦器椀 (第7図-52)(図版17-52)

土壙No.68 (S K 68) から (48) の土師質小皿と共伴した瓦器椀である。口径13.1cm、器高4.6cm、高台径4.1cm、器高指数35を測る。底部は平底で内傾する断面が三角形の高台を付す。底部から内弯気味に体部がのび、口縁部はやや外反しながら立上り、端部は丸くおさめる。口縁部外面は外反部をヨコナデし、太目の暗文が口縁部から体部中程まで施されている。内面は見込みの暗文は螺旋状のもので、側面は間隔の若干あくレコード圏線状に暗文が施されている。色調は内外面とも灰色で一部黒灰色を呈するところもある。器壁は薄いが、胎土は灰白色でやや粗さが認められる。口縁端部内面に1条の沈線を施しているが、き回転は消えている。

### 須恵器琖 (第7図-53)(図版17-53)

口径7.2cm、器高10.9cm、器部径4.2cm、胴部径11.2cmを測る。口縁部は外反して外上方にのび、頸部の上からきと号のところに鋭い凸線を2条配し、その間に6本1条の櫛描波状文からなる文様帯を有している。体部中位に最大径を有する球形をなし、頸部と同様に鋭い凸線を2条配し、その間に5本1条の櫛描波状文を施し、体部2条の凸線の間1.1×1.1cmの円孔を穿っている。手法の特徴はマキアゲ、ミズビキ成形、底部外面回転ヘラ削り他は回転ナデ調整である。胎土は密、焼成良好・堅緻。色調は暗灰色。

### 土師器甕 (第7図-54)(図版17-54)

口径11.8cm、器高11.5cm、胴径12.2cmを測る。口縁部は基部でゆるやかに外弯し外上方に立上る。口縁端部は丸くおさめる。体部中位に最大径をもつ球形の丸底を呈する。内・外面の刷毛目整形は表面磨減で不明であるが、胴部の黒斑がある場所に刷毛目の一部が認められる。胎土は多量の白色砂を含み、焼成はやや良。色調は赤褐色を呈する。

### 韓式系土器平底鉢 (第7図-55~56)(図版17-56)

軟質のもの2点がPitNo.156から出土している。(55)は口径8.6cm、器高7.2cm、胴径9.1cmの小形平底鉢と、(56)は口径13.6cm、器高12.0cm、胴径13.8cmで、ともに口縁部は基部で外反する「く」の字形口縁をもち、口縁端部にいたる。底部は平底で、胴部はやや張る深鉢で器高に比べ口径が大きいタイプである。口縁部内、外面ともにナデ調整を施している。(56)は体部外面に平行タタキが施されているが、(55)は表面磨減で不明である。隣接している四條畷市中野遺跡周辺の遺跡からの平底鉢は格子目叩き目及び縄蓆文が数多く出土している。

### 土師器壺 (第7図-57)

現存高12.6cm、胴径15.3cmを測る。頸部から口縁部にかけて欠損して不明であるが、器高約20cm前後の長頸壺と考えられる。最大径を胴部中位にもつ球形の丸底を呈する。胴部外面に不定方向の刷毛目調整、内面はナデ調整がそれぞれ施されている。

胎土は良好、焼成はやや良、色調は赤褐色を呈している。PitNo.143から出土した。

### C. その他の出土遺物（第Ⅳ層淡褐色砂質土層出土。）

#### 中国製磁器

白磁碗、破片であるが合計8点出土した。その内訳は口縁部4点、体部3点、底部1点である。口縁部及び底部の形式からみて、2種類で、玉縁口縁をもつⅣ類3点と口縁部が外反し底部は細く高いⅤ類1点に属するものが出土している。

#### 日本製磁器

備前の甕の破片と天目茶碗、唐津系の皿、瀬戸焼、常滑焼が出土した。

## 第5章 まとめ

今回の調査面積約765㎡の中で発見された遺構は、古墳時代中期の掘立柱建物跡、平安時代の掘立柱建物跡、方形板枿井戸、鎌倉時代から室町時代にかけての大溝、土壇状遺構、掘立柱建物跡、溝、江戸時代の溝状遺構が確認された。各遺構の大半から時代決定が行える土器、木製品が出土した。

調査で得た史料と遺物をすべて完全に報告するには、周辺の遺構・遺物との相互関係と合わせて、今後調査報告書を刊行していきたい。従って以下、今回の調査区で検出した遺構、遺物において、同一丘陵上に所在する岡山南遺跡、忍ヶ丘駅前遺跡、南山下遺跡の過去の調査をふまえて少し補足してまとめとしたい。

第一に今回の調査地点から出土した古墳時代掘立柱建物跡と出土した初期須恵器及び土師器についてである。

調査区の東に接する府道建設に伴う調査（岡山南遺跡）で古墳時代中期の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、大溝等を検出したが、特に大溝から出土した土師器は、岡山南遺跡第3次・第4次・第6次の発掘調査で検出した延長約50m、幅約2～3.5m、深さ約1～1.2mのU字状を呈した逆S字形の大溝B遺構と呼ばれる遺構内から形象埴輪（家形埴輪・衣蓋形埴輪）と伴出した土師器（甕及び長頸壺）と同型式のものが含まれていることから古墳時代集落範囲が南方に拡大することが確認された。

第2に平安時代についてである。特に方形板枿井戸内から黒色土器20点、土師皿21点、緑釉皿1点、高杯1点、石庖丁1点、釣瓶1点が出土したが、黒色土器A類碗はⅡa～Ⅱb古段階の良好な資料の一括資料であり、高槻市郡家今城遺跡井戸5出土の黒色土器、A類碗形式と同じである。うち1点が内・外面とも黒色のB類碗が含まれている。A類碗の底部外面に「高田宅(ヤケ)」2点、「福万(方)宅(ヤケ)」1点の墨書土器が井戸最下層から見つかっている。このことは、井戸祭祀に伴い投入されたもので、同様の例が、南約140mの岡山南遺跡第5次調査において方形板枿井戸内から土師器甕、把手付鍋、杯とともに「田内急」と墨書された黒色土器A類杯B2点と土師器杯AC手法と共伴して出土したが、この2点の黒色土器は編年からみてⅠ～Ⅱa段階の高槻市郡家今城遺跡井戸8出土の資料と同形成である。今回の調査地井戸に先行する井戸であることは確実である。第5次調査地の西側に隣接する忍ヶ丘駅前遺跡第8次調査区において黒色土器B類のみが出土する遺構も検出されており、平安京・左京内膳町SK18出土のB類碗と同形式である。これらの黒色土器出土範囲は約200m内外に確認されており、これらの土器は、A類杯B、A類碗、B類碗へと続くもので土器編年からみて、10世紀初頭から11世紀にかけて集落が営まれていたことを示している。次に土師質皿においても同様に規格化された「て」の字形口縁が黒色土器出土範囲に確認されている。

第3に鎌倉時代末から室町時代にかけての瓦器碗についてである。今回の調査区の土壙(S K-68)内から瓦器碗、土師質小皿が共伴して出土している。

この瓦器碗は、底部が平底で内傾する断面三角形の貼付け高台を有し、底部から内弯気味に立上る器形で口縁端部内面に一条の沈線を施しているもので、外面に太目の暗文・内面見込みに螺旋状の暗文、側面には間隔の若干あく暗文がそれぞれ施されているが、岡山南遺跡、忍ヶ丘駅前遺跡及び南山下遺跡から出土する瓦器碗からみると、南山下遺跡からの出土品が瓦器碗の初現形態を示す第Ⅰ期のものと考えられる。断面台形で安定感のある器壁の厚い高台付きの口径15cm、器高6cm、器高指数40を測るもので見込みには格子目、内外面に幅2～3mmの太い暗文がていねいに施されている。

第Ⅱ期から第Ⅲ期にかけての瓦器碗は四條畷市内出土品の約70%にあたるが、出土した瓦器碗は明らかに規格化されたもので、器形、形態、法量がほぼまとまりを示すものである。高台の断面が三角形の貼付けで安定しており、器高指数も38で、内・外面の暗文も細かくていねいに施している第Ⅱ期と、器壁が第Ⅱ期より薄く、器形の歪みが多くなり、高台が断面三角形で細く、暗文は細かく外面に少し暗文が施されている第Ⅲ期があるが、今回出土した岡山南遺跡、土壙(S K-68)内出土の瓦器碗(第7図-52)(図版17-52)は第Ⅲ期のものである。

第Ⅳ期は瓦器碗の終末期にあたり、高台の特徴が大きく変化するものである。すなわち、貼付け高台が粘土紐をすりつけ状にしたもので、やがて消滅する。暗文は、内面に数条の渦巻状のもので、見込みについても簡単な渦巻状のものが多い。口径も小さく、10cm以下で器高指数30を測る。第Ⅳ期の資料を出す場所は、忍ヶ丘駅前遺跡の枚方信用金庫忍ヶ丘支店用地周辺から13点が出土している。

このように岡山南遺跡のある忍ヶ岡丘陵内には、瓦器碗の編年からみて第Ⅰ期から第Ⅳ期の全期にわたり出土することが、これまでの調査で明らかになってきた。

第4に四條畷に搬入された中国産の輸入陶磁器は、各時代の資料が出土している。

今回の調査地区内から出土したものについては、第4章出土遺物の中で述べたように、遺構上面において白磁碗の破片が8点出土している。種類としては、玉縁口縁をもつⅣ類と口縁部が外反し底部が細く高いⅤ類が出土している。その他に、忍ヶ丘駅前遺跡から、白磁碗2点と白磁皿1点が出土しているが、白磁碗は、今回の出土品と同型式の玉縁口縁をもつⅣ-1aと、白磁皿は平底の底部のⅨ-1類に属するものである。

又、坪井遺跡からは青磁皿と白磁碗、皿が出土しているが、青磁皿は内面見込部に楯状施文具とヘラ状施文具の文様をもつ同安窯系Ⅰ-2類のもので、白磁碗は玉縁口縁をもつⅣ-1aと口縁部を外反し、底部が細く高いⅤ-3aの2種類の碗と、白磁皿は平底の底部で内面見込部にヘラ状施文具による文様をもつⅧ類に属するものが出土しており、南山下遺跡の石組井戸内からは、11点の白磁碗と青磁碗1点、瀬戸焼、常滑焼が一括出土しており、白

磁碗は玉縁口縁をもつIV-1aと口縁部を外反するV-3aである。

最後に中野遺跡からは景德鎮系の白磁合子が石組井戸内から出土している。

以上で四條畷市内出土の中国産の輸入陶磁器をみたが、それらの土器によって13世紀から14世紀の陶磁器を知る手掛りを得た。

第5に中世の主な窯業地は、瀬戸、常滑、信楽、備前、丹波、越前の六古窯が知られているが、四條畷及びその周辺地域から出土するものは、特に瀬戸焼、常滑焼、備前焼が圧倒的に多く、常滑焼は坪井遺跡から検出した石組井戸で、常滑第I期の大壺の肩部を打ち割り口縁部を井戸の井筒として使用されているのが最も古く、12世紀のものと考えられる。

備前焼は13世紀位から、瀬戸焼は14世紀位からそれぞれ流入しはじめている。

瀬戸焼は枚方信用金庫忍ヶ丘支店建設に伴う調査でおろし皿1点が出土した。また岡山南遺跡の忍ヶ丘ハイツ建設に伴う調査で瀬戸焼水滴が出土しており、同形のものが、高槻市岡本山古墓や、福井県一乗谷遺跡や生産地である瀬戸市内各古窯から出土してよく知られている。

瀬戸焼最盛期の古窯跡の分布は瀬戸市全域にわたっており、全域で生産活動がなされていたと考えられる。これらの瀬戸焼、常滑焼、備前焼は陸路の運搬ではなく海運によって流通したものと思われ、距離的に近い信楽、丹波などからの流通が陸路であるため、生産地との距離に比べて持ち込まれる量が多い理由であると思われる。

## 第6章 掲載遺物観察表

器種	器形	番号	法量 cm	形態の特徴	成形技法の特徴	備考
黒色土器	A類椀	1	口径 14.3 器高 5.1 高台径 7.6 器高指数35	○底部は平底、やや外傾気味で、断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキ。 ○体部外面はヘラケズリの後ヘラミガキ、内面は細かいヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、精良白雲母含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。外面淡褐色。 ○底部外面に高田宅の墨書銘。 ○SE-01内出土。
	A類椀	2	口径 14.6 器高 5.5 高台径 8.0 器高指数37	○底部は平底、下外方に開く断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキ。 ○体部外面に細かいヘラミガキ指圧痕が認められる。 内面は細かいヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、白雲母含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。外面暗褐色。 ○底部外面に高田宅の墨書銘。 ○SE-01内出土。
	A類椀	3	口径 15.2 器高 5.2 高台径 8.0 器高指数34	○底部は平底。やや外傾気味で断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。 外面にも1条の沈線を巡らす。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキ。 ○体部外面ヘラケズリの後ヘラミガキ。 内面は細かいヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、白色砂を多く含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。外面淡赤褐色。 ○底部外面に福万(万)宅の墨書銘後にヘラ記号。 ○SE-01内出土。

黒色土器

A類碗	4	口径 13.8 器高 5.0 高台径 7.6 器高指数36	○底部は平底。やや外傾気味で断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ内面に一条の沈線を巡らす。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキ。 ○体部外面ヘラケズリの後ヘラミガキ。 内面は細かいヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、白色砂、白色雲母含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。 外面赤褐色。 ○SE-01内出土。
A類碗	5	口径 14.0 器高 5.2 高台径 7.9 器高指数37	○底部は平底。垂直に下る断面台形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキの後ジグザグのヘラミガキ。 ○体部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。 内面は細かいヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、精良。黒雲母含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。 外面淡褐色。 ○SE-01内出土。
A類碗	6	口径 13.6 器高 5.0 高台径 8.6 器高指数36	○底部は平底。やや外傾気味で断面台形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に外彎しながら立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、靱跡2個認められる。 内面は一定方向のヘラミガキ。 ○体部内面は細かいヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、白雲母含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。 外面暗褐色。 ○SE-01内出土。
A類碗	7	口径 14.5 器高 5.4 高台径 8.2 器高指数37	○底部は上げ底気味の平底。外傾気味で断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に	○口縁端部内外及び高台はヨコナデ。 ○底外面はナデ。内面は一定方向のヘラミガキ。 ○体部内面は細かいヘラミガキ。	○胎土、白色雲母含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。 外面赤褐色。 ○SE-01内出

黒色土器	A類椀	7		立上り、端部は丸くおさめる。	○貼り付け高台。	土。
	A類椀	8	口径 15.4 器高 5.7 高台径 8.7 器高指数37	○底部は平底。やや外傾気味で断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は斜格子のヘラミガキ。 ○体部外面中央に粘土接合痕が認められる。内面は粗ヘラミガキ。 ○貼り付け高台。高台の一部にヘラキズが明瞭に残っている。	○胎土、細粒砂を含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。外面赤褐色。 ○SE-01内出土。
	A類椀	9	口径 15.0 器高 5.5 高台径 8.1 器高指数36	○底部は平底。垂直に下る断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面には沈線を巡らさない。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は粗ヘラミガキ。 ○体部外面にヘラケズリの後、ヘラミガキ。内面はヘラガキ状のミガキを付けている。 ○貼り付け高台。	○胎土、白色砂含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。外面赤褐色。 ○SE-01内出土。
	A類鉢	10	口径 16.9 器高 5.2 高台径11.0 器高指数30	○底部は極端な下げ底。垂直に下る断面三角形の高台を付す。 ○体部はやや外彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は丸く肥厚しておわる。内面には沈線を巡らさない。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は粗ヘラミガキ。内面底部は指圧によって、部分的に高台より、底部がはみだす。 内面はヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、白色小石含む。 ○焼成、やや良。 ○色調、内面黒色。外面赤褐色。 ○SE-01内出土。
	A類鉢	11	口径 21.2 器高 14.8 高台径10.5 器高指数70	○底部は丸味をもつ下げ底。外下方に開く断面台形の高台を付す。 ○体部は下方で内彎	○口縁部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○底部外面ナデ、四本のヘラキズがある。内面は一定方向のヘ	○胎土、白色砂を含む。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。

黒色土器	A類鉢	11		<p>気味に外上方へ立上り、中程上より内傾し「く」の字形に外反させ口縁部になる。</p> <p>○口縁端部はやや丸くおさめ、口縁端部4ヶ所(幅2.0cm、長さ3.9cm)に把厚している。</p>	<p>ラミガキ。</p> <p>○体部内面細かいヘラミガキ。</p> <p>○貼り付け高台。</p>	<p>外面、淡褐色。</p> <p>○SE-01内出土。</p>
	A類碗	12	<p>口径 12.8</p> <p>器高 5.4</p> <p>高台径 8.0</p> <p>器高指数42</p>	<p>○底部は丸味をもつ下げ底。やや外下方に開く断面三角形の高台を付す。</p> <p>○体部は内彎気味に立上る。</p> <p>○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。</p>	<p>○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。</p> <p>○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキ。</p> <p>○体部外面にヘラケズリ。</p> <p>内面は細かいヘラミガキ。</p> <p>○貼り付け高台。底部が高台よりはみだす。高台にヘラキズが認められる。</p>	<p>○胎土、白色砂含む。</p> <p>○焼成、やや良。</p> <p>○色調、内面黒色。外面、赤褐色。</p> <p>○SE-01内出土。</p>
	A類碗	13	<p>口径 14.7</p> <p>器高 5.1</p> <p>高台径 8.7</p> <p>器高指数34</p>	<p>○底部は平底。垂直に下る断面三角形の高台を付す。</p> <p>○体部は内彎気味に立上る。</p> <p>○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。</p>	<p>○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。</p> <p>○外底面はナデ、内面はヘラミガキ。</p> <p>○体部外面に指圧痕が認められる。</p> <p>内面は細かいヘラミガキ。</p> <p>○貼り付け高台。</p>	<p>○胎土、白雲母含む。</p> <p>○焼成、やや良。</p> <p>○色調、内面黒色。外面、褐色。</p> <p>○SE-01内出土。</p>
	A類碗	14	<p>口径 15.0</p> <p>器高 4.9</p> <p>高台径 9.0</p> <p>器高指数32</p>	<p>○底部は極端な下げ底。垂直に下る断面三角形の高台を付す。</p>	<p>○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。</p> <p>○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミ</p>	<p>○胎土、白色砂含む。</p> <p>○焼成、やや良。</p>

黒色土器	A類碗	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>○体部は外上方に立上る。</li> <li>○口縁部は体部から外上方に立上り、そのまま端部にいたる。端部は丸くおさめ、内面には沈線を巡らさない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガキ。</li> <li>○体部外面はヘラケズリ、後のヘラミガキは認められない。</li> <li>内面はヘラミガキが一部に認められるが全体としては不明である。</li> <li>○貼り付け高台。</li> <li>○内外面とも燻しがなされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○色調、内、外面ともに赤褐色。</li> <li>○SE-01内出土。</li> </ul>
	A類碗	15	口径 15.4 器高 5.3 高台径 9.7 器高指数34	<ul style="list-style-type: none"> <li>○底部は歪んだ平底。垂直に下る断面三角形の高台を付す。</li> <li>○体部は内彎気味に立上る。</li> <li>○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。</li> <li>○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキが一部に認められる。</li> <li>○体部外面に粘土接合痕及び指圧痕が認められる。</li> <li>内面のヘラミガキは不明瞭である。</li> <li>○貼り付け高台。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○胎土、白色砂含む。</li> <li>○焼成、やや良。</li> <li>○色調、内面黒色。</li> <li>外面、褐色。</li> <li>○SE-01内出土。</li> </ul>
	A類碗	16	口径 14.3 器高 5.0 高台径 8.0 器高指数35	<ul style="list-style-type: none"> <li>○底部は平底。垂直に下る断面三角形の高台を付す。</li> <li>○体部は内彎気味に立上る。</li> <li>○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめ、内面に1条の沈線を巡らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。</li> <li>○外底面はナデ、内面中央部は欠損しており、ヘラミガキ不明。</li> <li>○体部外面にヘラケズリ、その後ヘラミガキ。</li> <li>内面はヘラミガキが認められるが、部分的に焦げ部が0.1cmの厚さで認められる。</li> <li>内面のヘラミガキは焦げ部によって不明瞭である。</li> <li>○貼り付け高台。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○胎土、白色砂含む。</li> <li>○焼成、良。</li> <li>○色調、内面黒色。</li> <li>外面、褐色。</li> <li>○SE-01内出土。</li> </ul>

黒色土器

A類碗	17	口径 16.2 器高 4.9 高台径10.5 器高指数30	○底部は平底。垂直に下る断面三角形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上るが、中央部で指圧による歪みが認められる。 ○口縁部は外上方に外反し、端部は丸くおさめ、内面には沈線を巡らさない。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ。 ○体部外面に幅1.7cm内外の指圧痕が多く認められる。 ○貼り付け高台。	○胎土、白色砂含む。 ○焼成、やや良。 ○色調、内面黒色。外面、褐色。 ○SE-01内出土。
A類碗	18	口径 14.6 器高 5.2 高台径 7.0 器高指数35	○底部は丸味をもつ下げ底。垂直に下る断面台形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、端部は平面を成す。内面には1条の沈線状のものが認められるが、他の一般の沈線とは異ったものである。	○口縁端部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面は一定方向のヘラミガキ。 ○体部外面にヘラケズリの後、ヘラミガキ。内面は細かいヘラミガキ。 ○貼り付け高台。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。外面、赤褐色。 ○SE-01内出土。
A類碗	19	口径 17.2 器高 5.7 高台径 9.5 器高指数33	○底部は歪んだ平底。垂直に下る断面台形の高台を付す。 ○体部は内彎気味に立上る。 ○口縁部は外上方に立上り、段を成す。端部は丸くおさめる。内面に1条の沈線を巡らす。	○口縁部内、外面及び高台はヨコナデ。 ○外底面はナデ、内面のヘラミガキ不明瞭。 ○体部外面にヘラケズリの後ヘラミガキ。内面のヘラミガキは一部に認められるが全体としては不明瞭である。 ○貼り付け高台。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、内面黒色。外面、淡褐色。 ○SE-01内出土。
B類碗	20	口径 13.9 器高 5.5	○底部は平底。垂直に下る断面三角形	○外底面に一定方向の細かいヘラミガキ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。

黒色土器	B類椀	20	高台径 8.0 器高指数39	<p>の高台を付す。</p> <p>○体部は内彎気味に立上る。</p> <p>○口縁部は外上方に立上り、端部は丸くおさめる。</p>	<p>内面も一定方向のヘラミガキ。</p> <p>○体部外面にヘラミガキ。内面は細かいヘラミガキ。</p> <p>○貼り付け高台。</p>	<p>○色調、内外面とも黒色。</p> <p>○SE-01内出土。</p>
緑釉陶器	皿	21	口径 12.0 器高 4.1 高台径 6.7 器高指数34	<p>○底部は平底。ほぼ垂直に下る断面台形の高台を付す。底部に糸切り痕。</p> <p>○体部は内彎気味に立上る。</p> <p>○口縁部は体部から外上方に立上り、口縁で外反する端部は丸くおさめる。</p>	<p>○口縁部内、外面はロクロナデ。</p> <p>○体部外面ロクロケズリ後ナデ。内面はロクロナデ。</p> <p>○外底面以外に緑釉。</p>	<p>○胎土、精良。</p> <p>○焼成、良、硬質。</p> <p>○色調、淡褐色。</p> <p>○釉調、緑褐色。</p> <p>○SE-01内出土。</p>
土師器	大皿	22	口径 20.0 器高 4.2	<p>○レンズ状の体部をもち、口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる。</p> <p>○器壁 3~5mm。</p>	<p>○口縁部を1段にヨコナデ。</p> <p>○体部外面に指オサエ。</p> <p>○内面に不定方向のナデ後ハケ。</p>	<p>○胎土、精良。</p> <p>○焼成、やや良。</p> <p>○色調、淡褐色。</p> <p>○口縁部内・外面にスス附着。</p> <p>○SE-01内出土。</p>
	小皿	23	口径 10.0 器高 1.5	<p>○口縁部をやや外反させながら、端部を内側に把厚させる。ややシャープさが無い。</p> <p>○器壁 2.5~3mm。</p>	<p>○内底面一定方向のナデ。</p> <p>○口縁部内、外面ヨコナデ。</p> <p>○外底面指オサエ後ナデ。</p>	<p>○胎土、精良。</p> <p>○焼成、良。</p> <p>○色調、赤褐色。</p> <p>○SE-01内出土。</p>
	小皿	24	口径 10.5 器高 1.7	<p>○口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる。</p> <p>○器壁 3~4mm。</p> <p>○口縁端部に油煤附着。</p>	<p>○内底面一定方向のナデ。</p> <p>○口縁部内、外面ヨコナデ。</p> <p>○外底面指オサエ後ナデ。</p>	<p>○胎土、精良。</p> <p>○焼成、良。</p> <p>○色調、褐色。</p> <p>○SE-01内出土。</p>

## 土師器

小皿	25	口径 10.8 器高 1.4	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁薄い。2~3mm。 ○器高低く、扁平。	○内底面一定方向のナ デ。 ○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、暗褐 色。 ○SE-01内出 土。
小皿	26	口径 10.9 器高 1.8	○レンズ状の体部を もち、口縁部を外 反させ、端部を内 側に把厚させる。 ややシャープさが ない。 ○器壁 2~4mm。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、褐色。 ○SE-01内出 土。
小皿	27	口径 10.8 器高 1.6	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁薄い。2~3mm。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、褐色。 ○SE-01内出 土。
小皿	28	口径 10.8 器高 1.7	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁薄い。2~4mm。	○内底面一定方向のナ デ。 ○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。指紋が明瞭に認 められる。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐 色。 ○SE-01内出 土。
小皿	29	口径 11.0 器高 1.5	○尖がり気味の底部 をもつ。 ○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁薄い。2~4 mm。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、暗褐 色。 ○SE-01内出 土。
小皿	30	口径 11.0 器高 1.6	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁 4mm。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐 色。 ○SE-01内出 土。

## 土師器

小皿	31	口径 11.1 器高 1.7	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁やや厚く3～ 4.5mm。	○内底面一定方向のナ デ。ヘラキズが認め られる。 ○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐 色。 ○SE-01内出 土。
小皿	32	口径 10.8 器高 1.5	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁 3.5mm。 ○器高低く、扁平。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。 ○体部外面に靱跡が認 められる。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、白褐 色。 ○SE-01内出 土。
小皿	33	口径 10.8 器高 1.8	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。ややシャ ープさがない。 ○器壁 4mm。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、白褐 色。 ○口縁部内・ 外面の一部、 赤褐色。 ○SE-01内出 土。
小皿	34	口径 11.2 器高 1.7	○レンズ状の体部を もち、口縁部をや や外反させ、端部 を内側に把厚させ る。シャープさが ない。 ○器壁 4mm。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、褐色。 ○SE-01内出 土。
小皿	35	口径 11.0 器高 1.5	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚 させる。 ○器壁薄い。2～3 mm。 ○口縁端部に油煤付 着。	○口縁部内、外面ヨコ ナデ。 ○外底面指オサエ後ナ デ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐 色。 ○SE-01内出 土。
小皿	36	口径 11.2 器高 1.7	○口縁部を外反させ、 端部を内側に把厚	○内底面不定形方向の ナデ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。

土師器	小皿	36		させる。 ○器壁 3mm。	○口縁部内、外面ヨコナデ。 ○外底面指オサエ後ナデ。	○色調、暗褐色。 ○SE-01内出土。
	小皿	37	口径 11.2 器高 1.6	○口縁部を外反させながら端部に至る。端部を内側に把握させる。 ○器壁 3mm。	○口縁部内、外面ヨコナデ。 ○外底面指オサエ後ナデ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、褐色。 ○SE-01内出土。
	小皿	38	口径 11.5 器高 1.2	○レンズ状の体部をもち、口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる。 ○器壁薄い。1～2mm。 ○器高低く、扁平。	○口縁部内、外面ヨコナデ。 ○外底面指オサエ後ナデ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、暗褐色。 ○SE-01内出土。
	小皿	39	口径 11.8 器高 1.7	○口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる。ややシャープでない。 ○器壁 2.5～4mm。	○内底面不定形方向のナデ。 ○口縁部内、外面ヨコナデ。 ○外底面指オサエ後ナデ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐色。 ○SE-01内出土。
	小皿	40	口径 11.4 器高 1.4	○レンズ状の体部をもち、口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる。 ○器壁 2～3mm。	○口縁部内、外面ヨコナデ。 ○外底面指オサエ後ナデ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐色。 ○SE-01内出土。
	小皿	41	口径 12.0 器高 1.6	○口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる。ややシャープでない。 ○器壁 2～3mm。	○口縁部内、外面ヨコナデ。 ○外底面指オサエ後ナデ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐色。 ○SE-01内出土。
	中皿	42	口径 14.5 器高 2.0	○口縁部を外反させ、端部を内側に把厚させる。 ○器壁薄い。3～4mm。	○内底面一定方向のナデ。 ○口縁部内、外面ヨコナデ。 ○外底面指オサエ後ナデ。	○胎土、精良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐色。 ○SE-01内出土。

木製品	釣瓶	43	口径 18.5 器高 16.0 最大径19.9 厚1.3~1.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丸木の両端を鋸で輪切りし、内面を削り抜いて鉢状にしたものである。</li> <li>○胴部最大径は、原木の径に近いものと推定される。</li> <li>○表面は極めて平滑で、幅1cm内外のノミ状工具による整形をしている。内面は幅3cmのノミ状工具で上部は横方向に、中位から底にかけて縦方向に削る。</li> <li>○口縁部下2cmに幅1.4cm、高さ1.2cmと幅1.2、高さ1.4cmの方形孔2個を穿つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材質はクスノキ。</li> <li>○方形孔の摩滅からみて細紐を使用されていたと考えられる。</li> </ul>	○SE-01内出土。
須恵器	高杯	44	脚底径 8.9 脚部高 4.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○杯部は欠損のため不明。</li> <li>○脚部はゆるやかに裾部に至り、端部は丸くおさめる。</li> <li>○スカシ窓を穿っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マキアゲ、ミズビキ成形。</li> <li>○杯・脚部ハリツケによる。</li> <li>○回転ナデ調整。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○胎土、密0.1~3mmの白色砂含む。</li> <li>○焼成、良好、堅緻。</li> <li>○色調、灰色。</li> <li>○SE-01内出土。</li> </ul>
石器	石庖丁	45	長さ 8.9 幅 3.7 厚さ 0.9 紐孔間距離 3.0 重量 49.9g	<ul style="list-style-type: none"> <li>○片刃。身幅の狭いタイプ。</li> <li>○刃部稜明確。</li> <li>○刃先には刃潰れ痕がある。</li> <li>○A面両孔に紐擦れ痕がある。</li> <li>○背部に研磨痕がある。</li> <li>○石材は緑泥片岩。</li> </ul>		○SE-01内出土。

瓦器	皿	46	口径 9.1 器高 1.7	○底部は平底。 ○体部は内彎気味に外上方に立上り、口縁部に続く。 ○口縁端部はやや尖り気味におさめる。	○見込みは細いジグザグの平行線暗文を施す。 ○口縁部外面ヨコナデ。 ○その他は指オサエ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、灰色。 ○E-019 淡褐色砂質土層出土。
	皿	47	口径 8.8 器高 1.7	○底部はやや平底。 ○体部は内彎気味に外上方に立上り、口縁部に続く。 ○口縁端部はやや尖り気味におさめる。	○見込みは粗いジグザグの平行線暗文を施す。 ○口縁部外面ヨコナデ。 ○その他は指オサエ。	○胎土、良。 ○焼成、やや良。 ○色調、白灰色。 ○E-019 淡褐色砂質土層出土。
土師器	小皿	48	口径 8.1 器高 1.1	○平底気味の底部に、内彎気味に外上方に立上り。 ○口縁端部は丸くおさめる。 ○器壁 4mm。	○口縁部を内側に折り曲げヨコナデを施す。 ○内底面ナデ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐色。 ○SK-68 土壌内出土。
	小皿	49	口径 8.3 器高 1.1	○やや上げ底気味の底部から内彎気味に外上方に立上り。 ○口縁端部は丸くおさめる。 ○器壁 4~5mm。	○口縁部を内側に折り曲げヨコナデを施す。 ○内底面ナデ。	○胎土、良。 ○焼成、やや良。 ○色調、褐色。 ○E-019 淡褐色砂質土層出土。
	小皿	50	口径 8.3 器高 1.4	○やや上げ底気味の底部から内彎気味に外上方に立上り。 ○口縁端部は丸くおさめる。 ○器壁 4~5mm。	○口縁部を内側に折り曲げヨコナデを施す。 ○内底面ナデ。	○胎土、良。 ○焼成、良。 ○色調、赤褐色。 ○E-019 淡褐色砂質土層出土。
緑釉陶器	皿	51	現存高 1.9 高台径 7.2	○底部は平底。ほぼ垂直に下る断面台形の高台を付す。	○底部内、外面すべてに緑釉。	○胎土、精良。 ○焼成、良、やや硬質。

緑釉陶器	皿	51				<ul style="list-style-type: none"> <li>○色調、淡褐色。</li> <li>○釉調、濃緑褐色。</li> <li>○Pit No.17 出土。</li> </ul>
瓦器	椀	52	<p>口径 13.1 器高 4.6 高台径 4.1 器高指数35</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○底部は平底、内傾する断面三角形の高台を付す。</li> <li>○体部は内彎しながら外上方に立上る。</li> <li>○口縁部はやや外反しながら立上り、端部を丸くおさめる。</li> <li>○口縁部直下にヨコナデによる段を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○内面はヨコナデの後粗いヘラミガキによる暗文を施す。</li> <li>○口縁部外面はヨコナデ。</li> <li>○体部外面は指オサエのあとヘラミガキによる暗文を五方向に施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○胎土、良。</li> <li>○焼成、やや良。</li> <li>○色調、灰色。</li> <li>○SK-68 土壌内出土。</li> </ul>
須恵器	罎	53	<p>口径 7.2 器高 10.9 基部径 4.2 胴部径11.2 口縁部高 3.7 胴部高 7.2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○口縁部は上外方のび、口頸部で2本の凸帯をめぐる。口縁端部は丸く鋭くおさめる。口頸部の2条凸帯間に6本1条の波状文からなる文様帯を施す。</li> <li>○肩部は内彎気味に下外方に下る。</li> <li>○体部最大径を体部中位にもち、底部は丸くおさめる。体部中位に2条の凸帯がめぐり、2条の凸帯間に5本1条の波状文を施す。</li> <li>○体位中位に1.1×1.1cmの円孔を穿つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マキアゲ、ミズビキ成形。</li> <li>○体部外面<math>\frac{1}{3}</math>回転ヘラケズリ調整。他は回転ナデ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○胎土、密0.1～2mmの白色砂含む。</li> <li>○焼成、良好、堅緻。</li> <li>○色調、暗灰色。</li> <li>○Pit No.150 出土。</li> </ul>

土師器	甕	54	口径 11.8 器高 11.5 胴径 12.2 口縁部高 2.3 胴部高 9.2	○口縁部は基部でゆるやかに外彎し外上方に立上る。 口縁端部は丸くおさめる。 ○胴部は最大径を中位に位置する球形で丸底を呈する。	○口縁部内、外の表面が磨滅しておりハケ整形は不明。 ○胴部に5.5×4.5cmの黒斑が認められる。	○胎土、白色小石を多く含む。 ○焼成、やや良。 ○色調、赤褐色。 ○Pit 183出土。
韓式系土器	平底鉢	55	口径 8.6 器高 7.2 胴径 9.1	○口縁部は基部で外反する「く」の字形口縁をもつ。口縁端部は尖り気味におさめる。 ○底部は平底。 ○胴部はやや張る深鉢で器高に比べ口径が大きい。	○口縁部内、外面にナデによる調整。	○胎土、白色砂を多く含む。 ○焼成、やや良。 ○色調、淡褐色。 ○Pit No.156出土。
	平底鉢	56	口径 13.6 器高 12.0 胴径 13.8	○口縁部は基部で外反する「く」の字形口縁をもつ。口縁端部は丸くおさめる。 ○底部は平底。 ○胴部はやや張る深鉢で器高に比べ口径が大きい。	○口縁部内、外面はナデ調整。 ○体部外面に平行タタキを施している。	○胎土、良。 ○焼成、やや良。 ○色調、淡褐色。 ○Pit No.156出土。
土師器	壺	57	現存高12.6 胴径 15.3	○胴部は最大径を中位に有する丸底の球形。 ○胴部内面に粘土紐接合痕が残る。	○胴部外面に不定方向のハケ目調整。 ○内面はナデ調整。	○胎土、良。 ○焼成、やや良。 ○色調、赤褐色。 ○Pit No.143出土。

# 「図 版」



忍ヶ丘駅前遺跡

忍ヶ丘駅

南山下遺跡

岡山南遺跡

奈良井遺跡

正法寺跡

清滝古墳群

四條畷小学校内遺跡

図版二 岡山南遺跡航空写真





(南東より)



(南東より)



図版五 岡山南遺跡調査地全景



図版六 岡山南遺跡調査地全景



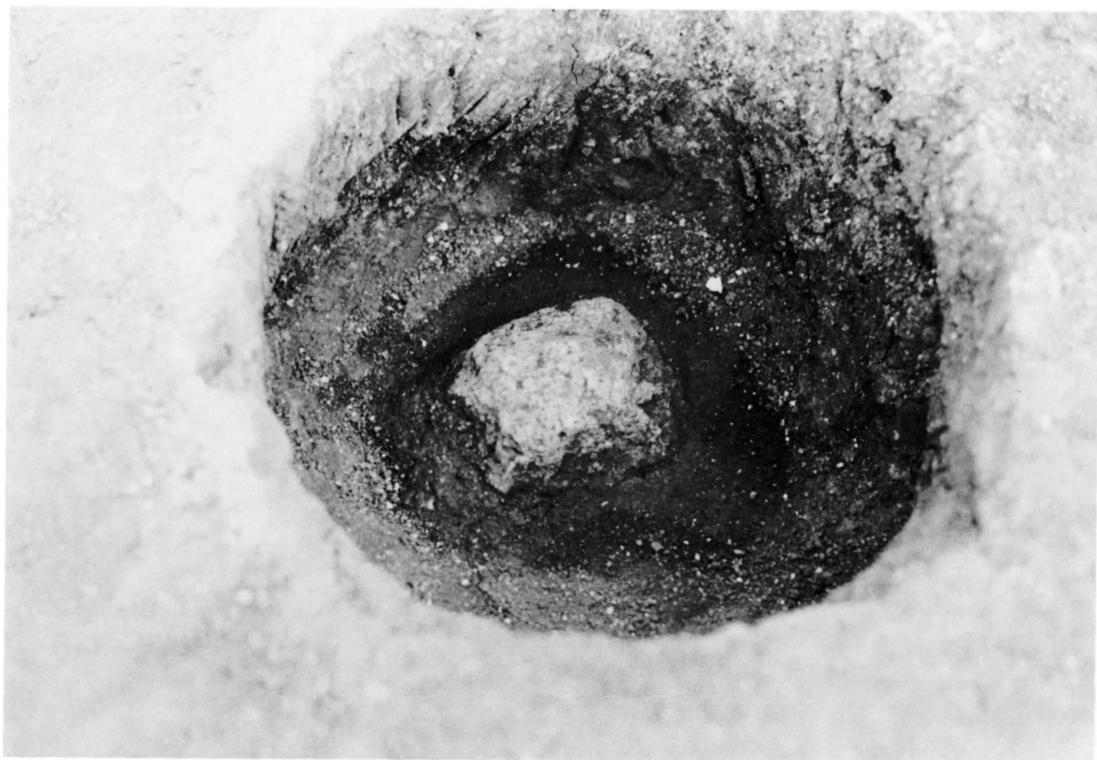
図版七 岡山南遺跡 井戸1



図版八 岡山南遺跡 井戸1 縦板・セイ口組・曲物井筒検出状況



図版九 岡山南遺跡根石検出状況





図版十一 岡山南遺跡土器出土状況



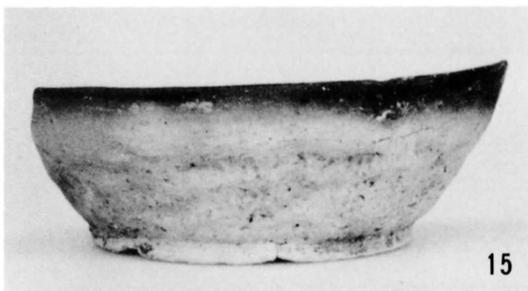
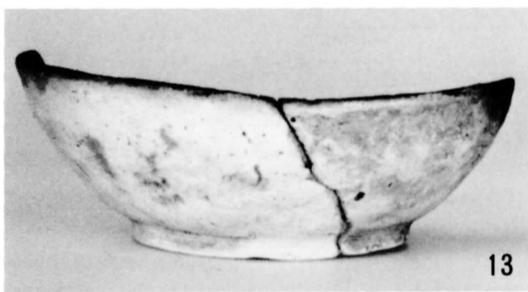
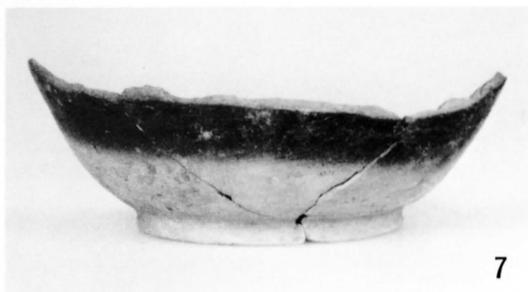
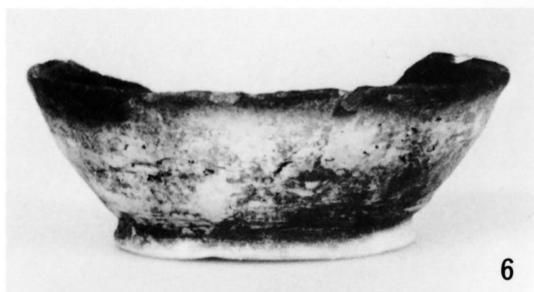


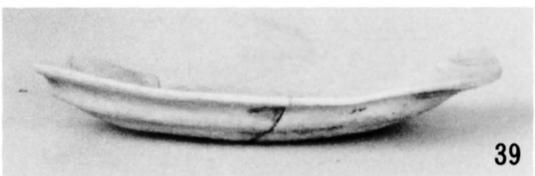
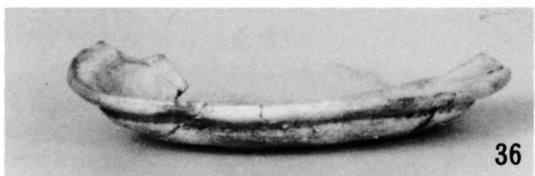
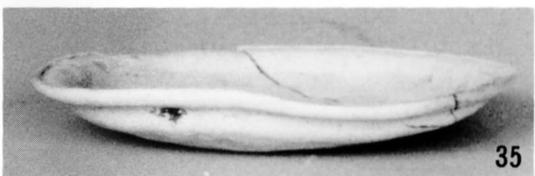
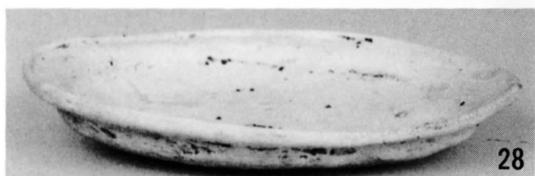


2"

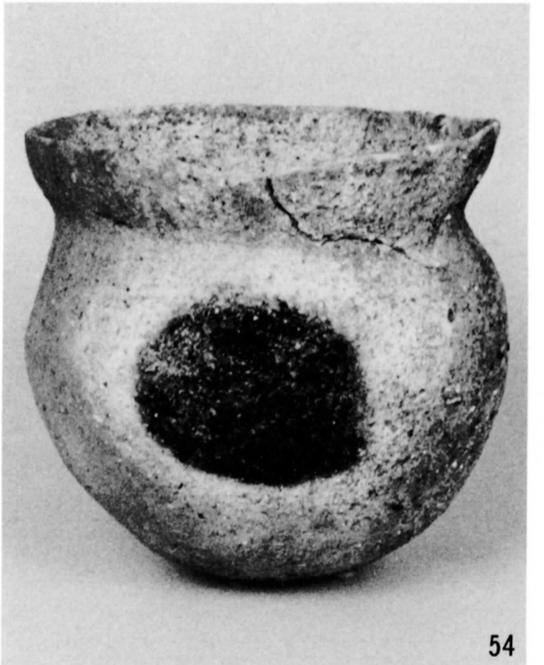
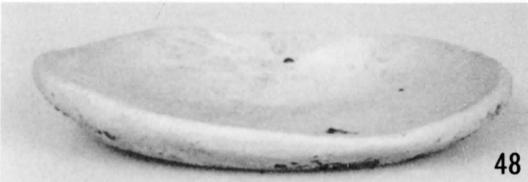
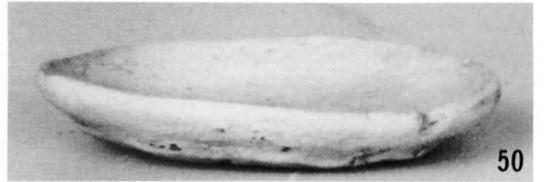
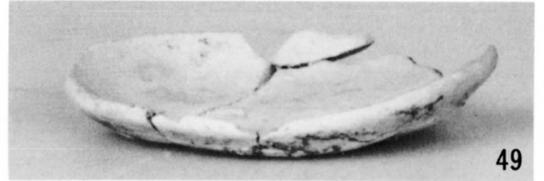


3"







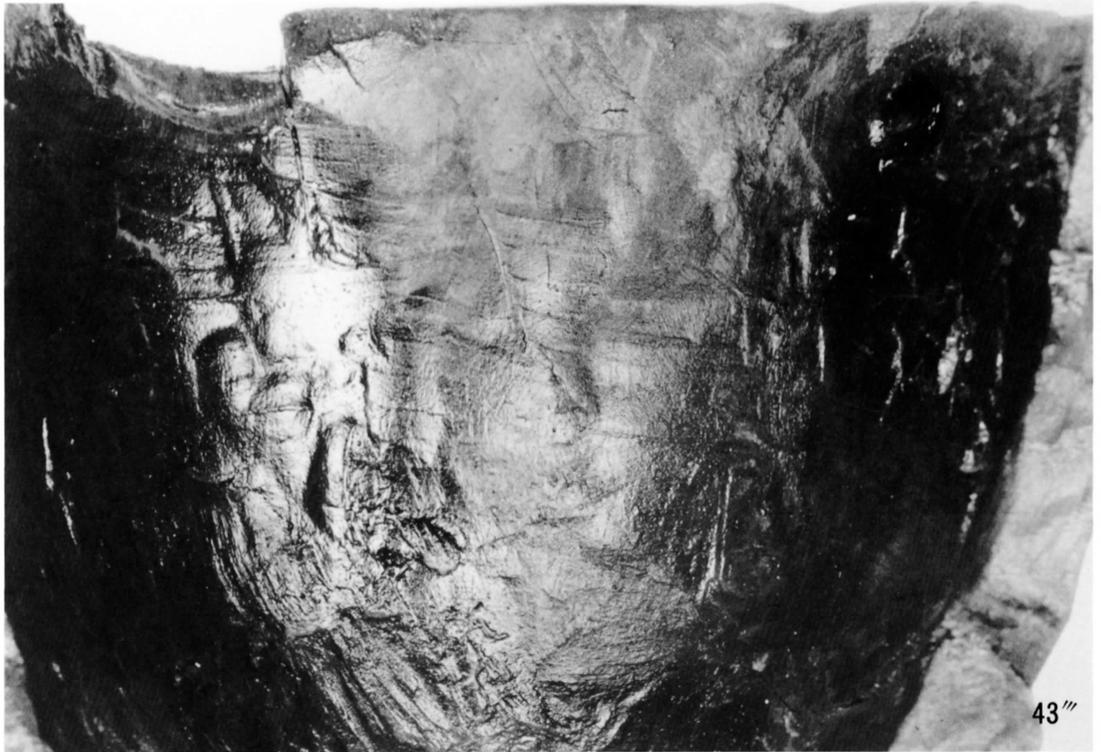




43



43'



岡山南遺跡発掘調査概要・Ⅳ

昭和62年3月発行

編 集 四 條 畷 市 教 育 委 員 会

発 行 四 條 畷 市 教 育 委 員 会

〒575 四條畷市中野本町1-1

印 刷 田 中 耕 株 式 会 社